

東京外国語大学 国際社会学部の歩き方

2021





東京外国語大学
国際社会学部の歩き方
2021年度入学生版



目次

1. 国際社会学部へようこそ！（国際社会学部長 真島一郎）	2
2. 国際社会学部の4年間	3
3. コース紹介	10
4. 卒業論文タイトル－2020年度－	16
5. 国際社会学部教員一覧	24
6. 学生によるゼミ案内	27
7. 卒業後の進路	33
8. 学生生活で困ったら	36

『国際社会学部の歩き方』は、東京外国語大学国際社会学部の新入生を主な対象として、授業の履修の仕方や大学での学び方を知るためのガイドブックとして作成しています。



国際社会学部へようこそ！

国際社会学部長 真島一郎

本学国際社会学部へのご入学、おめでとうございます。

これから4年間のキャンパスライフへと船出するにあたって、国際社会学部では、何をどのように学んでいけばよいのでしょうか。大学という場でみずからの思考を深めるための具体的な方法について、みなさんはいま、さまざまな期待をふくらませ、また始めのうちはすこし不安を感じているかもしれません。

私たち国際社会学部の教員は、そんな新入生のみなさんへの贈り物として、本冊子『国際社会学部の歩き方』を、手作り感が伝わるように毎年心を込めて編集してきました。

この冊子は、『履修案内』に記されている内容を具体例に即して分かりやすく説明し、とくに学部のコース案内に重点を置いたガイドブックになっています。みなさんが国際社会学部生として、これから段階をふんで、着実に学修を積み重ねていくうえでの具体的なイメージがもてるような、その意味では文字どおりの歩き方、ロードマップがこの冊子に示されています。2年生前半のコース選択・ゼミ選択をはじめ、卒業までの自分の学修プロセスを確認する必要があるたびに、本冊子を読み返し、手元において活用するようにしてください。

入学から卒業へといたるみなさんの大学生活は、コース・ゼミに所属するまでの2年間と、以後の2年間とで、大きく分かれます。大学生活前半の1、2年次では、専攻地域の言語をしっかり身につけ、同時にその地域の歴史や文化をめぐる基礎的な知識を修得することが第一の目標となります。この2年間は、現代の社会や世界をめぐる多様な問題群のうち、自分の関心がどのようなテーマに向いているかを精確に絞りこむうえでも、貴重な時間になるはずです。では、国際社会学部にはどのようなコースがあり、大学後半の3、4年次に、自分にふさわしいコースとゼミを選ぶには、あらかじめ前半の2年間で、どのような履修の準備をしておく必要があるのでしょうか。そうした点を、まず「国際社会学部の4年間」の各ページで確認してください。

続く「コース紹介」と昨年度卒業生の「卒業論文タイトル」では、3コースのそれぞれで、導入科目→概論科目→専門科目の段階的な学修プロセスがどのように構成されているか、また大学生活の集大成にあたる卒業研究がどのようなテーマで提出され、各コースの特色がそこにどのように反映しているかを詳しく知ることができます。あるいは本学部の「教員一覧」で、自分の関心に近い領域の専門家が、どのコースに所属する教員であるかを調べておくのもよいでしょう。

本学の授業は、コロナ禍のもと昨年度から一部オンライン化されました。そうした状況にあっても、大学のキャンパスとは、生身の人間どうしが知と感性を通わせあう格別の空間、フォーラムであることにかわりありません。今年度の『歩き方』を編集するうえで、私たちがとくに心がけたのは、このフォーラムに響きわたる学生と教員の声を、みなさんへの Welcome Messages としてじかに、またなるべく多く届けることでした。「学生によるゼミ案内」や「卒業後の進路」のコーナーでも、在校生や卒業生のリアルな声がこだまする構成にしています。

「学生生活で困ったら」のページでは、新生活を始めるみなさんに今からぜひ伝えておきたいと思った情報を集めました。日々の暮らして困ったことや悩みごとが生じて、どうかそれを特別なこととは考えないでください。ひとに不安や悩みがあるのは、本当にふつうのことです。時間がぼっかり空いた時などに、それぞれの窓口へふらりと立ち寄ってみてください。

国際社会学部の4年間を通じて自分なりの問いを立て、その問いを縦横無尽にひらきながら学んでいくみなさんの「歩き方」を、私たち教員は力いっぱいサポートしていきます。マジ激アツな、めざましき思考の日々を、ぜひ共にすごしてまいりましょう！



セネガルのラップグループ、クルギと（撮影：飛田晋秀）

国際社会学部の4年間

東京外国語大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

東京外国語大学は、皆さんが卒業時まで以下の力を身につけたとき「学士（言語・地域文化）」の学位を授与します。この方針を意識して、これから大学で学んでいってください。

1. 高度な言語運用能力：専攻言語に関し、読む、聞く、話す、書くという4技能で高度な言語運用能力を身に付けていること。国際社会で活躍するに足る、十分な英語運用能力を身に付けていること。
2. 世界諸地域についての知識・教養：専攻する地域の文化・社会について、さまざまな観点から十分に学び、基礎的知識・教養を身に付けていること。
3. 現代社会を生きる力：現代社会を生きる上で必要な幅広い知識・教養と、世界において日本を正しく紹介することのできる日本発信力を身に付けていること。
4. 専門的な知識：世界諸地域の言語・文化・社会の仕組みを解明する諸学問分野や、国際的な諸問題を超域的な視点から扱う諸学問分野のうち、所属する学部・コースが扱う分野についての専門的な知識を身に付けていること。
5. 主体的に考え、行動し、発信する力：ものごとを探求し、客観的に分析する力、さまざまな情報を体系化して整理する力、それらをわかりやすく表現する力を身に付けていること。短期・中長期の留学やインターンシップ等への参加の経験を通じ、主体性と世界の人々と協働する行動力を身に付けていること。

国際社会学部の14の地域／27の専攻言語

皆さんは入学とともに専攻する地域と言語をもちます。自らの地域と言語を大切に、大学での学びを組み立てて下さい。

北西ヨーロッパ 西南ヨーロッパ	英語 フランス語 イタリア語	北アメリカ 中央ヨーロッパ	英語 ドイツ語 ポーランド語 チェコ語
イベリア	スペイン語 ポルトガル語	ラテンアメリカ	スペイン語 ポルトガル語
ロシア	ロシア語	南アジア	ウルドゥー語 ヒンディー語 ベンガル語
中央アジア	ロシア語 ウズベク語 モンゴル語	東南アジア	インドネシア語 マレーシア語 フィリピン語
中東	アラビア語 ペルシア語 トルコ語		タイ語 ラオス語 ベトナム語 カンボジア語 ビルマ語
アフリカ オセアニア	英語＋ 英語＋	東アジア	中国語 朝鮮語

入学から卒業まで

皆さんの履修する授業は「世界教養プログラム」と「専修プログラム」に分けられます。世界教養プログラムは言語文化学部、国際日本学部と共通のカリキュラムです。専修プログラムは国際社会学部独自の授業で構成されています。ここでは、履修の大まかな流れをつかむための枠組みだけを示しますので、授業の取り方は『履修案内』をよく読んでください。

卒業までには定められた単位を修得する必要があるため、これを卒業所要単位といいます。3年次への進級のためには2年次の終わりまでに一定の単位を修得する必要があるため、これを進級要件といいます。

卒業所要単位と進級要件は以下の表の通りです。言語科目の単位は専攻地域によって異なるので、『履修案内』で確認をしてください。専修プログラムの「導入科目」「概論科目」「専門科目」については、所属するコースの授業の単位を一定数以上含むことが必要になります。

卒業所要単位の内訳

			進級要件 単位数	卒業所要 単位数	
世界教養プログラム	言語科目	専攻言語	15 ※	36 以上※	※言語科目の履修の仕方は地域ごとで異なるので『履修案内』等よく確認をしてください
		諸地域言語			
		教養外国語			
		GLIP 英語科目	-		
	地域科目	地域基礎	6	6 以上	地域ごとに指定される授業があります
基礎科目	基礎リテラシー	1	1	基礎科目は1年生のうちに履修してください	
	基礎演習	2	2		
教養科目	教養科目	-	16 以上		
専修プログラム	導入科目	導入科目	8	8 以上	所属したコースから2単位以上
	概論科目	概論科目	-	6 以上	所属したコースから4単位以上
		講義科目（専門演習）	-	24 以上	所属したコースから12単位以上
	専門科目	本ゼミ	-	4	※指導教員の専門演習が本ゼミ
		卒業研究演習	-	4	
		卒業研究	-	8	
		関連科目	-	0 以上	他学部・他大学の授業は関連科目の単位になります
卒業所要単位数 合計				125 以上	

注：この卒業所要単位の内訳は2019年度以降の入学生に適用されるものです。それ以前の入学生および2021年度以前の3年次編入生は該当する入学年の『履修案内』に従ってください。

コースとゼミの選択【2年次 春学期】

2年次の春学期終了時には、皆さんの希望にもとづいてコースとゼミ（注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます）が決まります。

2年生に進級すると、コースとゼミを選ぶための説明会や意向調査が始まります。コースは何を専門的に学びたいかによって選択することになります。選択するコース・ゼミについては1年次から考え始めるようにしましょう。とくに導入科目、教養科目の履修に際しては、2年次以降で専門的に学びたいことを意識して、関連の深い授業を履修するようにして下さい。一部のゼミについては、27ページ以降に先輩たちによる紹介があります。こちらも参考にしてください。

Welcome Messages

伊東 剛史 先生
地域社会研究コース

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の流行のため、いろいろな問題と向き合い、いろいろなことを考えて、東京外国語大学国際社会学部に入学することを決めたとと思います。心の中には希望と不安が同居しているかもしれません。たしかに去年は、大学生活のありがたがおおきく変わりました。とくに授業に関しては私たち教員にとっても、みなさんの先輩の学生たちにとっても大変な一年でした。そのなかでオンライン授業にはオンライン授業の、対面授業には対面授業の良さがあることに気がつき、それぞれの良さをさらに引き出しながら新たな教育・研究のあり方をつくりだそうと、教員も学生もそれぞれの立場で考えてきました。今年の国際社会学部の授業は、そうした試行錯誤をもとに練りあげられたものです。不安を完全に拭うのは難しいとしても、ぜひ、期待をふくらませて授業に臨んでください。こんな状況だからこそ勉強したいという学生の情熱を、最近はとても強く感じます。オンラインであれ、オフラインであれ、そんな情熱を燃やしたみなさんに会えることを楽しみにしています。



卒業論文執筆の気分転換に大学近所をお散歩中。ビートルズ『アビー・ロード』にインスパイアされて。散歩の後は、みんな執筆がはかどった模様。

筆者：右端

※車両や歩行者の妨げにならないように撮影しています



上海ワンコと日本ワンコ（人）

あなたの一番好きなアニメキャラの髪の毛は何色

でしょうか？アニメの中だとカラフルな髪色のキャラが多く存在します。それもまた種の多様なのかなと思いつつ観ているのですが、外大もある意味カラフルだと思います（髪色は暗めが多いですが）。一人一人が自分の好きなことを大切に、個性を出せる、そんな多様性を受容する校風なので皆さん是非「自分らしく」学生生活を送ってください。ちなみに私の一番の推しキャラ（3人）の髪色は白と金と黒です！そんな私ですが、自分らしく平和な学生生活を送る上でのアドバイスを二つ記させていただきます。「健康第一・癒しを大事に」です。もし今後海外に行く際は、ぜひ日本に居る時よりも体調管理に気をつけて下さい。北京に短期留学した際、食中毒に罹り1週間以上授業に出れなかった経験があります。心身ともに大ダメージを受けました。あんな腹痛と発熱はもう二度と嫌です。また、大学生活の中でストレスを感じることもあると思います。そういう時「安定した心の拠り所」のようなものがあって良いです。私の場合はぬいぐるみ・アニメ・漫画です。

ヒトでも良いのですが、ヒトよりも安定した存在が個人的にはオススメです！

健康と癒しを大切に、毎日マイペースに過ごしましょう！

中平 青知杏 さん
東アジア／中国語
地域社会研究コース
倉田ゼミ・3年生

国際社会学部の3コース

国際社会学部には専門性に則して3つのコースがあります（コース紹介10ページ～）。

皆さんの希望にもとづき、所属するゼミとともにコースが決まるのは2年次の春学期終了時です。導入科目からコースを意識して履修するようにしてください。それぞれのコースに所属している教員の専門分野はこの冊子の24ページから掲載してあります。また、各コースの学生の卒業論文のタイトルが16ページ以降に載っているので、将来の自分の卒業論文のテーマを考える参考にしてください。

■地域社会研究コース

地域間・国家間のグローバルな関係を踏まえつつ、対象とする地域（エリア）の歴史や現代社会を専門的に学修する、地域に焦点を合わせたコースです。

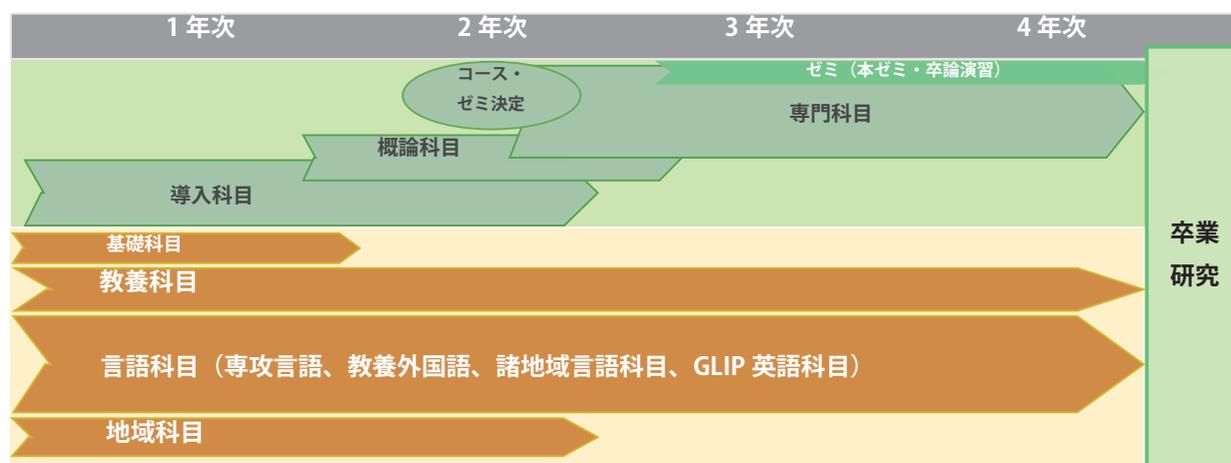
■現代世界論コース

現代世界が直面する問題を対象とし、社会学、ジェンダー論、グローバル・スタディーズ、社会思想研究などの領域を中心に、最新の方法で取り組むコースです。

■国際関係コース

社会科学の方法論を体系的に学び、法学、政治学、経済学、国際協力論などの学問分野を専門的に学修するコースです。

4年間の履修の流れ



国際社会学部の導入科目（2021年度）

【シラバス検索の方法】

大学 HP のトップページ→**在学生の方へ**をクリック→下の方にスクロールすると→**シラバス検索**



春学期・夏学期開講

科目名	担当者	学期	曜限	授業形態
地域社会研究入門 2	坂井 真紀子	春学期	水 4	オンライン
歴史社会研究入門 1	福嶋 千穂	春学期	水 4	オンライン
歴史社会研究入門 1	篠原 琢	夏学期	集中	オンライン
政治社会論入門	山岡 龍一	春学期	金 1	オンライン
社会関係論入門	金 富子	春学期	火 1	オンライン
社会関係論入門	五十嵐 ミュゲ	春学期	火 4	対面
法学入門 1	鈴木 美弥子	春学期	金 1	オンライン
政治学入門 1	松永 泰行	春学期	火 1	対面
政治学入門 2	若松 邦弘	春学期	月 1	オンライン
経済学入門 1	蒲生 慶一	春学期	月 1	オンライン
経済学入門 3	チョイ イーケオン	春学期	火 4	対面

秋学期・冬学期開講

科目名	担当者	学期	曜限	授業形態
地域社会研究入門 1	小川 英文	秋学期	水 3	オンライン
歴史社会研究入門 2	巽 由樹子	秋学期	水 3	オンライン
世界認識論入門	中山 智香子	秋学期	月 6	オンライン
政治社会論入門	山岡 龍一	秋学期	金 1	オンライン
世界認識論入門	未定	冬学期	集中	
法学入門 2	鈴木 美弥子	秋学期	金 1	オンライン
政治学入門 3	藤田 将史	秋学期	月 1	オンライン
政治学入門 3	山崎 周	秋学期	金 5	オンライン
経済学入門 2	蒲生 慶一	秋学期	月 1	オンライン
経営学入門	渡辺 周	秋学期	金 1	オンデマンド

※ 3 コースを色分けしてあります。新型コロナ肺炎対応などの理由により、時間割や授業形態が変更になる可能性もあります。シラバスや学務情報システムをこまめにチェックしてください。

国際社会学部で社会を学ぶ

■ インターンシップ

就職活動につながるインターンシップ以外にも、広く社会や仕事を知るためのインターンシップの機会が用意されています。海外でのインターンシップの機会もあるので、積極的に参加してください。

■ 公務員試験対策授業

国際社会学部では、国家公務員総合職試験の受験科目区分に対応した授業がそろっています。外務省専門職、地方公務員の試験にも対応しています。

■ ボランティア活動

ボランティア活動は、VOLAS（ボランティア活動スペース：研究講義棟 2階 206室）で紹介をしているほか、活動の相談、サポートも行っています。

国際社会学部で世界を学ぶ

■ 留学

ショートビジット、派遣留学、休学留学など多様な留学の機会があります。1年生の夏学期から参加できるプログラムもあります。

■ 英語による授業

英語によって行われる授業は世界教養プログラムのGLIP英語科目のほか、専修プログラムでも多く開講されています。英語による授業の履修は世界中から外語大に学びにきている留学生と交流するチャンスでもあります。

Welcome Messages

上原 こそえ 先生
現代世界論コース



「一人びとりが代表」——これは、

1970～80年代の沖縄島中部東海岸における

石油備蓄基地建設に抗った住民運動「金武湾闘争」で掲げられた言葉です。

歴史をつくるのは一人の英雄ではなく地元で暮らしている人びとと全員だ、という思いを表現した反公害・反開発の住民運動のこの思想は、アメリカの社会学者C・ライト・ミルズ（1916-62）が指摘したことも重なります——すなわち、個々の人びとの日常が「社会」や「歴史」とどう関連しているかを捉える「社会学的想像力」を鍛えることが社会学を学ぶ意義である。国家・資本・戦争をめぐる構造的変動のなかで翻弄されながらも、変革を求めて働きかけ、抗いながら生きる個々の人びとの日常の具体的経験こそが歴史をつくる原動力になっていく。移動が制限される時代にあっても、授業や本や映像を通じて想像力を喚起し、時代や地域を縦横無尽に越境しながら学ぶことは可能です。こうした「外部」と自分自身の足場がどのように接続されるのか、それを見出す作業の繰り返しこそ、気候変動や感染症の危機に直面した現代に生きる私たちに必要とされている課題ではないでしょうか。山形県の

4自治体（寒河江市・白鷹町・高畠町・飯豊町）に1週間滞在し、自分自身の体験を通じて日本社会が抱える問題を考える山形スタディツアーも、そうした課題に取り組み、社会学的想像力を育む活動です。

1970-80年代に大規模開発の候補地となった沖縄島中部東海岸の金武湾。左奥に見えるのは浜比嘉島。



Welcome Messages

藤田 紀乃 さん
中央アジア／モンゴル語
地域社会研究コース
青木ゼミ・4年生（20年度卒）

ご入学おめでとうございます！

大学では自分が本当に興味があることに打ち込めると

思います。それは4年間に限らず、私は2年間休学留学をし、計6年かけて卒業しました。

モンゴル語科だったので1年生の時はモンゴル語を勉強していましたが、2年生から留学を意識し

始め、もともと中央アジアに興味があったことからロシア語の勉強に励み、ロシア、アルメニア各9ヶ月

留学しました。学生最後の1年は、ロシア文学の授業をきっかけにロシアの詩や小説にハマり、図書館で本を漁っ

ていました。6年間を振り返って、やはり学年が上がるにつれてより高度な勉強ができたと感じています。なので

今思えば、私の場合は留学や勉強のことで悩みながらも1・2年のうちに単位を多めに取って、後半で外国語の

本が充実した貴重な図書館を活用したり、卒論や部活の引退のために時間を使ったことが良かったかなと思って

います。周囲から「なぜマイナー言語を学ぶのか、何の役に立つのか」と聞かれたこともあります。しかし

大学や留学で大切な友人に出会うことができ、ロシア文学から得た表現は人生を彩ることも、人を

癒すことも出来るのだと実感し、言語を学ぶ魅力はこんなにも多くあるのかと日々感動して

います。変わりやすい世の中だからこそ既存の価値が揺らいでいると思います。

自分にとって、真の宝物となるような素敵な学びや出会いが

ありますように！

同じ語科の友人とトビリシにて
筆者：右



ヤンゴンで国際交流イベントに
参加する筆者

私は3年秋からの1年をミャンマーで過ごしました。

ヤンゴン大学でビルマ語を学びながら、インターンシップで

日系メディアの記者を務めました。ビルマ語を話さなければ、

入れない場、会えない人、できない体験が沢山ありました。一軒一軒で両手いっぱい

フルーツを手渡されつつ、初めての外国人として村じゅうの家々を回りました。休暇に見習い僧として

出家すると、私に仏教のエッセンスを説いてくれました。英語が普及し、翻訳が発展してもビルマ語を

学ぶ人間を、人々は心から受け入れてくれたのです。最も印象に残った体験は与党幹部への独占イン

タビューの仕事です。取材許可は取りづらく、外国人で学生の私には難しいタスクでした。留学で学んだ

ビルマ語で粘り強く交渉して、なんとか取材にこぎつけました。結果的にこの体験が卒業後も記者を

志すきっかけとなりました。好奇心で選んだビルマ語も、当初は「将来に繋がるのか」と不安でした。

しかし予期せぬ結果として、留学が言語学習の意義を示し、自分の進路を照らしてくれました。

ミャンマーに「潜るなら（底の）砂まで、登るならてっぺんまで」という諺

があります。底やてっぺんまで極めてはじめて、意義や価値が

わかることもあります。

鈴木 蒼 さん
東南アジア第2／ビルマ語
地域社会研究コース
左右田ゼミ・4年生（20年度卒）

コース紹介



地域社会研究コース

地域社会研究コースでは、「導入科目 → 概論科目 → 専門科目」という積み重ねを通して、世界の様々な地域に住む人たちの世界について「歴史的なものの見方」と「現代社会を構造的に捉える視角」を学んでいきます。

地域社会研究コース 導入科目

導入科目では、地域研究の実践例や歴史学の方法論について入門的に学びます。この科目の授業は、原則として本コースの専任教員によるリレー講義で構成されています。世界の様々な地域や学問領域を知ると同時に、コースの教員を知ってゼミ選びの参考にしてください。

科目名	授業題目	担当（取りまとめ）教員
地域社会研究入門 1	地域研究の方法と実践	小川英文（リレー）
地域社会研究入門 2	地域研究入門	坂井真紀子（リレー）
歴史社会研究入門 1	世界史を開く	福嶋千穂（リレー）
歴史社会研究入門 1	現代史と映像	篠原琢
歴史社会研究入門 2	歴史学入門	巽由樹子（リレー）

地域社会研究コース 概論科目

概論科目では、より専門的な研究の方法と実践について学びます。リレー講義と、1名ないし2名の担当教員による講義とがあります。

科目名	授業題目	担当（取りまとめ）教員
地域社会研究概論	地域社会と経済生活	澤田ゆかり（リレー）
地域社会研究概論	ナショナリズムとイスラーム主義（国家・民族・宗教）	青山弘之
地域社会研究概論	比較宗教論研究（国家・民族・宗教）	丹羽泉
歴史社会研究概論	文書・画像史料論	久米順子（リレー）
歴史社会研究概論 1	近代世界の形成（グローバル・ヒストリー）	高橋均
歴史社会研究概論 1	「周縁」から考えるグローバル・ヒストリー（グローバル・ヒストリー）	伊東剛史・大鳥由香子

地域社会研究コース 専門科目

専門科目では、特定の地域や主題（テーマ）について深く学びます。専任教員の講義のみならず、学外から多様な専門家を非常勤講師として招いて開かれる講義も少なくありません。毎年のシラバスや時間割で授業の内容や担当者をよく確認してください。



香港・黄大仙

地域社会研究コースで学べる地域

北西ヨーロッパ、中央ヨーロッパ、西南ヨーロッパ、イベリア、ヨーロッパ、北アメリカ、ラテンアメリカ、ロシア、中央アジア、東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、オセアニアの各地域

関心のある講義や演習を組み合わせることによって、複数の地域を対象とするトランスリージョン（二地域・多地域間関係）を学ぶことも可能です。

地域社会研究コースで学べる学問領域

このコースで演習や講義を開いている教員が専門とする学問領域は、大きく言えば「地域研究」「歴史学」になりますが、その中でも人文・社会科学にまたがる多様な分野を含んでいます。

ナショナリズム研究、政治研究、思想研究、ジェンダー研究、感情史、文化史、生態人類学、地球環境学、美術史、農村社会学、村落開発、地域開発、経済論、経済史、軍事史、民衆史、政治社会史、図像解釈学、歴史基礎学（資料体学）、宗教学、宗教社会学、宗教史、都市史、貧困史、社会経済研究、文化人類学、先住民研究、地域関係研究など



ロシア・ペテルブルグ・宮殿広場

コース紹介

現代世界論コース

経済主導のグローバリゼーションがもたらす一極化された世界の傍らで、固有の環境と社会の多様性を私たち一人一人が生きているのが現代です。そこには生活とともに「なりわい」があり、規則とともに「ならわし」があり、教育とともに「まなび」が、差別とともに「ちがひ」が、所有とともに「もやい」が、そして公の歴史とともに「ものがたり」が一人一人の「いのち」の証言として息づいています。そうした具体の生の諸相が、世界の公的な動きとつねに触れ合っているような世界——現代世界論コースは、そんな変容するダイナミックな世界のありようを様々な視点から探究します。

■現代世界論コースの「視点」と関連ゼミ（◆）

現代世界論コースでは主にグローバル・スタディーズ、歴史、政治学・哲学、社会学の視点から学びます。現代を生きる人々の生と世界の動きの連関を、複数の視野を交差させながら理解を深めるのが本コースで学ぶ醍醐味です。

グローバル・スタディーズ

経済・社会思想、人類学、資源、認識論、生と労働、暴力論

「グローバル・スタディーズ」

現代世界における「サステナビリティ」という課題が社会科学において持つ意味を考察する。

「グローバル・スタディーズ」

「擬制商品」、つまりフィクションとしての商品と労働、土地、貨幣を軸に考察を行う。

◆中山智香子「グローバル・スタディーズ：グローバル・スタディーズの思想的基礎」

グローバル・スタディーズにおける諸思想を学び、変動する現代世界を複合的、構造的に分析する力をつける。

◆真島一郎「グローバル・スタディーズ：人類学と現代世界」

グローバル・スタディーズをめぐる現代思想の基本動向を、人類学との関連で把握する。

◆東城文柄「環境保全論」（※2021年度に着任 シラバスを参照して下さい）

政治学・哲学

デモクラシー・正義・観念論・倫理・表象文化・レイシズム・多文化主義

「エスノポリティクス」

移民やエスニック・マイノリティの諸問題について理解し、多元的な社会のあり方を理解する。

「政治社会論入門：政治学原論—「共にあること」の政治」

政治学の基本的な考え方に慣れると同時に、読み、書き、問いを立て、問いを考え抜く力を培う。

「哲学・社会思想—戦後思想の現在形・第一部」

日本の戦後思想史の展開、グローバルヒストリーとしての再定義、現代的課題について考える。

◆大川正彦「政治理論：いのち論を始める——声・傷・息」

〈声・傷・息〉を主題とする学術書を精読し、「世界のなかで他者たちとともにあること」を思考する。

◆岩崎稔「哲学・社会思想：現代世界を把握するための重要概念」

政治哲学の基本的で重要な概念を理解する。とくに新自由主義とポピュリズムを理解することを目標とする。

歴史

日本・東アジア・ヨーロッパ・近現代史・植民地研究・マイノリティ・セクシュアリティ

「歴史の中の日本を知る：日本の文化遺産」

人々の暮らしや営み中で作られてきた歴史遺産・文化遺産について学び、日本の歴史や文化を理解する。

「世界の中の日本〔日本史〕：東アジアの中の日本史」

東アジアのトランスナショナルな連関の中で「日本史」をとらえかえす方法的視座を学ぶ。

「現代社会史論：男らしさと近現代」

ドイツ・ヨーロッパ近現代史を、「男らしさ」という観点から捉え直す。

◆米谷 匡史「日本地域研究：近代日本社会とマイノリティ」

マイノリティの歴史・思想や日本社会の文化的葛藤、近代東アジアの日本植民地研究について理解を深める。

◆吉田ゆり子「歴史社会論：日本の伝統社会を考える」

日本の伝統社会に関する文献を読み、日本人のものの考え方や社会が形成されてきた歴史的経緯や要因を探る。

◆小野寺拓也「現代社会史論：現代社会史研究演習（ドイツ・中央ヨーロッパ）」

ドイツ・ヨーロッパ地域の歴史と現在に関わる諸テーマについて、英・独語のテキストを読んで議論する。

◆（副ゼミのみ）古川高子「現代社会史論：ツーリズムの歴史演習」

ヨーロッパや世界各地におけるツーリズムの歴史的発展と現代社会における意味を考える。

社会学

近代化、戦争、国際移動、ジェンダー、教育、セクシュアリティ、性暴力、社会運動

「社会学：国際社会学」

トランスナショナルな現象・プロセス・構造やその主体について、フランスの文脈での事例から学ぶ。

「ジェンダー論：戦争とジェンダー・セクシュアリティ」

戦争という事象に内在するジェンダー・セクシュアリティに対して、敏感でクリティカルな視点を学ぶ。

「教育社会学」

いじめ、不登校、子ども、若者の貧困など「教育問題」とされる事象を分析的に読み解く方法を学ぶ。

「社会学：社会学原論」

近代化、格差、グローバリゼーション、文化、メディアといった現代社会の本質的側面を理解する。

◆上原こずえ「社会学専門演習」

社会学の理論および方法論について学び、文献・論文レビューと議論を通じて各自の専門的関心を深める。

◆加藤美帆「教育社会学専門演習」

社会的不平等と教育、逸脱、ジェンダー、家族論などに関する論文から、社会構造の教育への影響を理解する。

◆金富子「ジェンダー論」

ジェンダー・セクシュアリティ研究に関する文献を精読し、個人報告+討論という形式を中心に行う。

◆田邊佳美「国際社会学演習」

現代フランスの移民や人種マイノリティに関する英・日・仏語で書かれた国際社会学の学術書・論文を読む。

コース紹介



国際関係論コース

国際法・国際政治・国際経済・国際協力を学びたいひとの履修モデル

国際関係コースの科目は4つの分野——法・制度・国際機構の活動等を扱う国際法、各国の政治体制や国際的な統治の問題を扱う国際政治、国内や国際的な資本や資源の分配の問題を扱う国際経済、法学・政治学・経済学を応用した学際的な領域を扱う国際協力——で構成されています。

導入科目、概論科目は、この4つの分野区分に沿って開講されています。

それぞれの分野のなかで、「導入科目 → 概論科目 → 選択科目」という3段の積み重ねで、その順序どおりに、科目を履修することが必要です。

分野を交差して履修する「つまみ食い」や順序を無視しての「飛ばし」はお勧めしません。また4年間のうちに複数の分野の履修を推奨します。

【国際法】

キーワード

国際組織
人道法
領土問題
自衛権
海洋法

国際法
国際機構論
国内法
(公法・私法)など

国際法概論

法学入門

【国際政治】

キーワード

民主主義
紛争・平和
移民・難民
民主制
安全保障

国際政治論
比較政治論
政治学など

国際政治概論

政治学入門

〈選択科目〉
2年次秋学期～

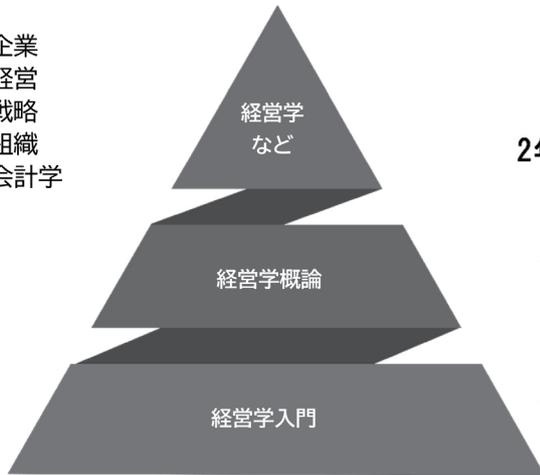
〈概論科目〉
2年次～

〈導入科目〉
1年次～

【経営学】

キーワード

企業
経営
戦略
組織
会計学



〈選択科目〉
2年次秋学期～

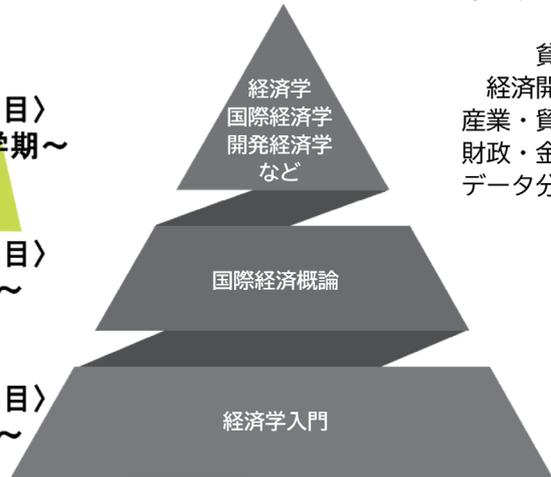
〈概論科目〉
2年次～

〈導入科目〉
1年次～

【国際経済】

キーワード

貧困
経済開発
産業・貿易
財政・金融
データ分析



【国際協力】

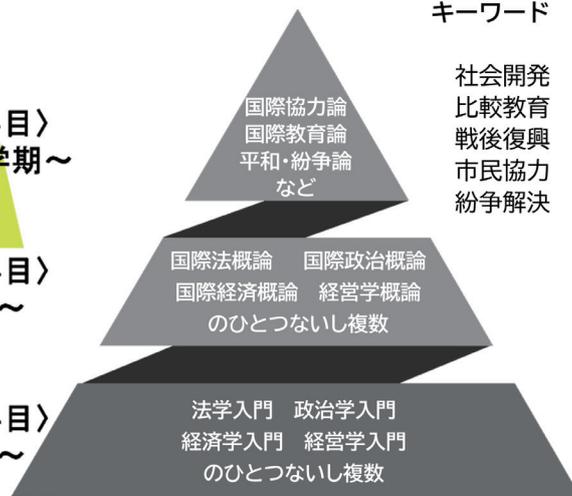
キーワード

社会開発
比較教育
戦後復興
市民協力
紛争解決

〈選択科目〉
2年次秋学期～

〈概論科目〉
2年次～

〈導入科目〉
1年次～



卒業論文タイトル — 2020 年度 —

地域社会研究コース卒業論文

犬型ロボット aibo は愛玩犬の代替的存在なのか
エリザベス期イングランドの魔女狩りにみる女性像と魔女像
ライドシェアサービスのベトナムにおける普及要因と日本における普及阻害要因・今後の普及の可能性
人が依存症になる心理的原因は何か？～物質的依存症と嗜好行動のメカニズムについて～
マンガローブは誰のものか
「頭脳流出」から「頭脳循環」へ——マレーシア・シンガポール・オーストラリアにおける高度人材獲得への取り組みに関する比較研究——
イエフダ・ハレヴィの詩作と聖地巡礼——イベリア・ユダヤ知識人と地中海ユダヤ人コミュニティ——
拡大する「家族」～ケアでつながる現代ガーナ人社会～
イングランドにおける聖母礼拝堂（レディ・チャペル）の建造——マリア崇敬と典礼、カンタベリー大司教座を中心に——
20 世紀アイルランドにおけるゲーリック・リーグ——年次報告レポートを中心に——
多民族国家における民主主義の実現可能性——ケニアの 2007/2008 年選挙後暴力から民族政治を分析する——
フィリピンの教育格差～ NGO 活動を通して～
翻案にみるヴィクトリア期の児童文学：1886 年の『不思議の国のアリス』舞台化を中心に
結婚の平等：アメリカ合衆国の同性婚訴訟から見る結婚と「市民権」の関係
『赤毛のアン』における子どもと孤児
American History Erased From Textbooks: John Leguizamo's "Latin History for Morons" Reveals Latin People's Place in American History
オーストラリアにおける移民及び難民をめぐる法律と政治の変遷——多文化主義の行く末と日本への影響——
アグロエコロジー主流化の時代における日本の農業開発援助の課題～代表的な 3 事業 SHEP、CARD、IFNA の批判的考察～
アジアの女性が家族計画を選ぶとき——産む・産まないの選択は誰のもの——
ケニア農村社会における携帯電話の普及とその背景
社会主義ユーゴスラヴィアの消費文化における西側の受容：1960 年代から 70 年代にかけての国外への買い物
リトアニアでのナチス・ドイツ占領政策とユダヤ人絶滅政策における現地協力者の役割と動機に関する分析
「盗賊騎士」とは誰であったのか——法・暴力・経営からみた中世末期ドイツ騎士の実態——
《西構（ヴェストヴェルク）》の理念と機能——帝国修道院コルヴァイにみるカロリング朝教会建築の創意——
フリードリヒ 1 世バルバロッサによるゲルンハウゼンの建設——中世盛期ドイツにおける王宮都市と王国統治——
「音楽の都・ウィーン」のイメージの形成と変化～ナチ時代の文化政策におけるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によるニュー・イヤール・コンサートの位置づけ～
中世末期の北方絵画に見る敬虔な画家の闘争心——自画像と自然モチーフを手掛かりに——
国防軍脱走兵の顕彰とオーストリアの犠牲者ナショナリズム ウィーンの名士軍司法犠牲者記念碑を例に
ハプスブルク君主国の婚姻政策と宮廷——フリードリヒ 3 世からその子マクシミリアン 1 世へ：1440 - 1519 年——
消費の内側から狩猟をみる——ジビエ料理屋でのスタッフ経験をもとにして——
セネガル共和国における都市固形廃棄物管理問題～包括的制度改革を考える～
フランスにおけるデジタル化の実態とデジタル・デバイド
部活動から見る日本人の道徳観と日本の組織文化——なぜ部活動は日本でのみ発展したのか——
パリ郊外におけるエスニック・マイノリティの今日的状況に関する考察——「郊外映画」と風刺新聞『シャルリ・エブド』社襲撃事件の分析から——
日仏家族史の分岐点：同性婚法制化への道のり
近世フランスのメナジェリーから考察する現代の人間と動物の関係
貿易中継地としての台湾：16 世紀から 17 世紀にかけての台湾と日本における交易
フランスの教育制度が移民に及ぼす影響
現代におけるイタリア人とイタリア料理～北イタリア、ミラノを中心に～
ファシズム期のイタリアにおける「南部問題」——カルロ・レーヴィ『キリストはエボリで止まった』の分析を通して——
イタリア・ファシスト大学生団 GUF の研究意義——ファシズム体制の新指導者層教育の観点から——

民主政移行後のスペインにおける映画を通じた「歴史的記憶」の回復——子どもの視点から見たスペイン内戦——
メデジンにおける都市開発政策
ルイス・ソテロとセバスティアン・ビスカイノ——確執の背景と慶長遣欧使節への影響——
日本近代競馬の発展についての考察～明治・大正期における馬匹改良の観点から～
メキシコにおける先住民差別の歴史——独立以後100年間を振り返る——
エクアドルの先住民と観光開発——先住民アイデンティティの考察——
1960年代～1980年代のキューバ・ポスターから見る社会
大坂商人の施行——天保飢饉への対応を中心として——
中国における政府、企業、消費者間の環境意識のギャップ——EV産業を例として——
「なぜアフロブラジル宗教が現代でも排斥されるのか」～報道からみえる歴史的・現代的理由～
ブラジルの人工妊娠中絶法がもたらす女性たちの多様な生き方
明治初期の神戸における貧民救済制度
ブラジルにおける日系コミュニティの階層性——なぜ彼らは日系コミュニティから離れるのか——
在日ブラジル人児童生徒をめぐる社会情勢に伴う教育課題—愛知県の事例を中心に—
ナラトロジーの観点から日本ドラマを分析する——「私は貝になりたい」と「半沢直樹」の比較——
資源依存型経済の新たな成長源を考える—サハリン州を例に—
日本における女性のロシア文学受容——ロシア文学は日本の女性を解放し得たのか——
未開社会における宗教的実践：シボ族の植物療法を事例として
日本で買える食材で作るグルジア料理
ウズベキスタンの国民形成に関する一考察——「国民独立理念：基本的概念と原則」の授業に着目して——
ロシア連邦教育法の新旧比較——連邦中央の権限を中心に——
クルグズスタンの国家建設——映画『山嶺の女王クルマンジャン』を対象として——
ユーラシア経済同盟の問題点——貿易・直接投資分野における域内の経済成長効果について——
ポーランド＝リトアニア・タタール人と2つの国家
サンクトペテルブルクの地下鉄駅におけるデザイン——2010年以降に建設された駅のデザインテーマとその意図——
海外ストーリーミングサービスの拡大と日本のコンテンツ産業の展望 - アニメ製作を中心として -
ロシア女性の二重負担の歴史——労働者/母親として——
ユーラシア主義にみられる帝国の問題——L. N. グミリョフの思想を手掛かりに——
同性愛という名の”ウイルス”：ウズベク・ホモフォビアを理解する
農民武芸の普及——武蔵国多摩地域を中心として——
現代ロシアにおける若者の正教徒——新型コロナウイルス流行で表面化した新しい時代の信仰の在り方
現代ロシアの若者世代はプーチン政権の支持層となりうるか
人はなぜ宗教を信じるのか
近年のポーランドにおける反LGBT感情の構成要素とその背景
藤田嗣治はなぜ戦後フランスへ行ったのか——戦争画を描いた理由とともに考察する——
キュビズム建築がチェコ人のナショナルアイデンティティの形成に果たした役割—世紀転換期プラハの社会状況を背景に—
チェコスロバキアの現存社会主義—評価の変遷
チェコにおけるスポーツとナショナリズム——長野オリンピックの記憶
エリーザベトに対するイメージの考察
ブラックな労働環境の蔓延と職場の心理的圧力——日本における抑圧的な職場環境の事例を中心に
日本における清末居士仏教研究の動向と課題——楊文会を中心として
中国の戸籍間格差と学生の就職意識の関係性——海外留学の視点から考える——
中国水環境問題をめぐる現状と公共財管理の在り方 - 他事例との形態的類似性を探る -
中国の戸籍制度の教育への影響について
香港の「通識教育科」と台湾の「認識台湾」の比較
中国人消費者の海外ブランド選好度～中国ECサイト天猫に見る消費特性～
中国における退役軍人の再就職難について——日本の任期制自衛官の「なり手不足」問題との比較——
海外市場における中華スマホの参入障壁——XiaomiやOPPOは日本で活路を見出せるか——
二・二八事件が台湾人のアイデンティティに与えた影響
日本・中国・韓国における大卒者の就職活動に関する分析

華人企業は先進国型の多国籍企業に脱皮できたのか——タイ CP グループのアジア通貨危機以降の中国事業に着目して
明暦の大火時における将軍の動座
中国の映像アーカイブ機関の現状と課題——ヨーロッパ・日本の事例と比較して——
活動家としての佐久間象山——対外危機への提言に注目して——
中国の少数民族問題と民族政策——教育政策と同化を中心として
進まない中国の戸籍制度改革——政策と実態の隔たり——
中国自動車市場における「プレイヤー転換」——日系企業の限られた選択——
日中の観光産業～中国人の訪日観光客に対する日本人のイメージ改善の可能性～
中国アニメーションの発展とアファンティの表象の変化
「30代韓国成人男性のうつ病経験に関する質的研究」翻訳と解説
韓日翻訳『脱コルセット：到来した想像』
多国籍街・新大久保における多文化共生への道のりと課題
日韓における「家族のあり方」の変化—近代家族成立以降の性別役割変化に注目して—
翻訳：北朝鮮人民の生活 脱北者の手記から読み解く実相 第一・二・三・六章 伊藤亜人著
台湾ハイテク産業の発展と展望
自治体の外国人政策に関する考察——欧州インターカルチャー政策との比較検討と静岡県浜松市におけるケーススタディを通じて
中国における HIPHOP 規制
イ・ギュタク『葛藤する K,pop』翻訳
「幼保一元化」政策から見た比較研究——日本と韓国の幼児教育と無償化を中心に——
日本人向けウイグル式モンゴル文字の教科書研究
日本・モンゴル経済連携協定（EPA）の締結意義
明治初期～第二次世界大戦期における アイヌ民族の自己認識の変遷
観光状況におけるバリの伝統文化の再構築
訪日インドネシア人観光客の SNS 利用の特徴とプロモーションにおける課題
ステヴィアの都市計画モデルのバタヴィアにおける適用—洪水リスクへの適応を中心に
文化遺産保護と観光——世界遺産都市マレーシア・ジョージタウンにおけるストリートアートの役割——
エスニック・レストランを分解する——新大久保地区のネパール料理店を事例に
越境し結びつく ASEAN の財閥——フィリピンのアヤラ・グループとミャンマーのヨマ・グループとの資本提携を事例に
フィリピン人介護従事者の長期雇用を実現するためには——EPA 介護福祉士候補者と技能実習生を受け入れ事例として——
文化文政期における飲酒文化の変遷
フィリピン小売り産業の発展と多様化～日系・東南アジア系新興コンビニエンスストアを事例に～
タイにおける高齢化問題とタイ企業の取り組みに関する一考察——サイアムセメントグループを中心に——
歴史教科書『認識台湾』にみる台湾教育「本土化」と中国の「文化台独」批判
タイのスマートシティ構想——101 True digital park を事例に——
日本の再生医療のタイ進出に関する一考察——富士フィルムによる再生医療実用化プロジェクトを事例に——
タイコーヒーとカフェ事業の発展に関する一考察——スターバックスコーヒータイランドを中心に——
タイにおける企業メセナと現代美術の発展に関する一考察——タイ・ビバレッジの事例を中心に——
タイ企業による対 CLMV 投資に関する一考察——サイアム・セメントグループのロンソン石化事業を事例に——
タイ水産加工業の発展とタイ水産加工企業の海外進出——タイ・ユニオン・グループの事例研究——
翻訳『クム族の生業』
ラオスと埼玉県秩父地方の染織技術に関する比較研究
東南アジア諸国における日本酒の販路拡大について——タイとベトナムの事例——
ラーマ5世治世期からピブーン第1次政権期における国家が掲げる女性像の変化——女子教育のカリキュラムの分析から——
「本物」のタイ料理とは？——料理が織りなす社会関係——
ラオスにおけるナムトゥン2ダムの影響
ベトナムにおける水質汚染問題と日本の関わり
近世における福山城下町の社会経済構造についての研究
ベトナムにおける日本語教育の課題と展望
東日本大震災から考える 浜松市の多文化防災推進に向けた取り組みの評価

世界遺産における保護と持続可能な活用の両立に向けた課題
ベトナムにおける共働き社会——現状と今後の変化について——
プノンペンにおける都市開発の課題
カンボジアにおける伝統織物・絹緞の再生とビジネスネットワークの構築 ——LOTUS SILK の絹緞ビジネスを事例に ——
日本におけるミャンマー人高度人材のキャリアステップ傾向と理想
アウンサンスーチー政権下のビルマ語新聞 ——『ディーウェーブ』『ミャンマーアリン』『ユニオンデイリー』の比較内容分析 ——
イギリスにおけるパキスタン系移民の婚姻形態 —— アレンジド・マリッジを中心に ——
インドの市民権法についてー「インド市民」とは誰か ——
北海道に移住した白石藩
多磨霊園
インド独立史に照らして見る「ヴァンデー・マータラム」——「国歌に準ずる歌」の地位の再検討を中心に ——
イギリス領セイロンにおけるアヘン流通問題：政府専売制の確立まで
日本のメディアにおける「ひとり親家庭」のイメージ分析研究の意義 —— 当事者の「語り」とともに ——
干ばつはいかにして脅威になったのか —— 自然環境と社会制度からみるダルフルの紛争 ——
カイロの都市化と景観の変化
エジプトにおける反政府デモとソーシャルメディアの役割についての考察：2011年と2019年のデモを比較して
揺れ動くアイデンティティ——アッシリア人キリスト教徒の闘争——
イラクと安定ーアメリカ占領統治とイラク戦争後の復興
財政危機の端緒：レバノンにおける財政赤字の深刻化
シリアにおけるアラブ民族主義とクルド民族主義：理論と実践の乖離
現代パレスチナ人女性の恋愛プロセス——宗教と政治の観点から——
一時婚がイランに与える政治的メリットとは
国際的に活躍するイラン人映画監督の作品の変化
現代イランにおける伝統医学
トルコ・イスラエル関係はなぜ悪化したか —— トルコの外交政策とイスラーム世界におけるユダヤ教徒の歴史から紐解く
生きるということ ～突然の「臨死」と「部分の死」を体験してみてわかること～
トルコにおけるアイデンティティの在り方 —— 現代トルコを理解するために ——
鉄道・道路と近現代トルコ史の関わり
フランス革命期から英仏協商までの民衆の対仏意識の変遷 ——ジェイムズ・ギルレイ及び『パンチ』を中心に——
国立西南聯合大学から見る中国戦時の国文教育
「由熙」、「来意」論 —— 李良枝における「イメージ」の問題をめぐって ——
姓とジェンダー —— 「冠姓権」にめぐる争論から見る ——
過去と現代のヘイトスピーチの様態に関して —— 関東大震災朝鮮人虐殺の原因と現代のメディアから見られるヘイトスピーチから ——
近世美濃紙の生産と流通 —— 紙商人武井助右衛門を中心として ——
イッシュオルチョンドロ・ビッダシャゴルの社会改革と挫折：ベンガルルネッサンスを背景に
The formation of Brazilian national identity and its subsequent acquisition in the Japanese migrant community.

現代世界論コース卒業論文

K-POP 女性アイドルとジェンダー表象 —— 2010年代を中心に ——
美醜格差と倫理 —— 何が問題か
「幸せ」のナラティブ？ —— 日本人戦争花嫁の表象と語りの分析 ——
音楽における人種性の解体 —— チャールズ・ミンガスの音楽からみる自由なジャズの在り方 ——
早期教育の拡大とその背景
ファッションを用いたルッキズムの破壊
第2次安倍政権下の「女性活躍」の緻密な脆さ：「成長戦略」を分析する
日本で包括的性教育が進まないのはなぜか —— 包括的性教育の必要性和保守派によるバックラッシュ ——
小学校英語教育の課題点と可能性

立ち上がるヒップホップ——ブロンクスから始まる逆襲の文化——
映画『ムーンライト』がもたらした新たな表象——普遍性と画期的性格の混在——
アフリカにおける教育開発の変遷 ～ザンビア共和国を事例とした考察～
権力による人々のセクシュアリティへの介入はなぜ不徹底だったのか？ —— ナチにおける「ドイツ人の血と名誉を保護するための法律」の実効性を例に ——
教皇の沈黙
翻訳論の記憶に対する有用性
ナチスドイツの女性・性政策——生命の泉協会の成り立ちと役割——
独裁国家の「楽園」：東ドイツにおけるヌーディズムと抵抗
今日の音環境をめぐる諸問題について —— サウンドスケープと音の聴取構造による検討 ——
生きるために描く——アドルフ・ヴェルフリの 25,000 頁の空想とリアル
私的文書からみるナチス統治下のドイツ国民の態度
いじめ対策としてのストレスに関する教育と人間関係の指導
ポピュリズム政党とルサンチマンの親和性 —— 「ドイツのための選択肢」の躍進を例にして ——
ドイツ近現代における軍国主義の長期的な受容についての考察：権力と国民双方の視点にもとづいて
ベルリン・ユダヤ博物館についての一考察 —— 建築、ユダヤ、ドイツ社会 ——
観光における真正性の一考察 —— 「忠霊塔」の事例から ——
公園の概念に関する社会学的考察 —— 公園の性質・機能・社会的役割の整理と「公園の社会学」 ——
モロッコにおける教育言語としてのフランス語 —— ムハンマド六世とベルモクタールの教育政策を中心に
オタクの聖地巡礼とその観光効果について
《平和の少女像》とネット・バッシング - あいちトリエンナーレ 2019 「表現の不自由展・その後」を中心に -
メディア表象における花魁と娼妓 —— 「さくらん」と「親なるもの —— 断崖 ——」 ——
ミュージカル『ハミルトン』の多様性と排除 —— 2020 年以降の観客に何を訴えるか ——
サイコパスの諸相 —— 彼らは異常者か ——
村上春樹の月が照らす「良い」物語
教員の多忙問題とその背景
日本における安楽死を合法化した場合の運用の可能性について～オランダとスイスの事例から学んで～
ユーザーフレンドリーな記念碑 —— 虐殺の記憶をデザインする ——
「撲滅すべき悪」と「必要悪」のはざままで —— ボリビアで生きるために働く児童の考察 ——
ボリビアにおける先住民フェミニズムの台頭 —— チョリータ・レスリングに秘められた女性たちの葛藤 ——
感情規則としての「おもてなし」の分析 —— 歴史・文化・社会的視点から ——
「ヘイトデモをとめた街」のプレヒストリー —— 青丘社桜本保育園から川崎市ふれあい館の識字学級までを中心に ——
「造られない水」の価値：生活場面での地下水利用の再評価 東京を対象地域として
粹の不在と情動のゆくえ —— 『ミッドサマー』をめぐる一考察 ——
真のアメリカ社会を描写するアジア系アメリカ人 ～映画『Crazy Rich Asians』から見るアメリカの Representation Matters～
フェミニズムにおける被害者意識の意義 —— なぜ女性被害者の語りは封じ込められるのか ——
子ども食堂の地域コミュニティとしての評価
嘘と真をめぐる生の揺動ーヴァーツラフ・ハヴェルの政治哲学から
外国人労働者の金銭面での権利保障とそれに必要な諸施策
『ペスト』における不条理な死
椰子の木とココナッツから見る海南島の南国イメージ
歌舞伎町 現実と夢幻のはざままで
「歴史主体」論争における「責任を引き受ける論理」の分析
2020 年代のジェンダー感覚で考える ドラマ作品制作の可能性
捕鯨で生きること —— インドネシアラマレラ村での伝統的捕鯨の意義 ——
日本における BL に関する批判的意見の考察
二項対立を越えたストリートハラスメントの理解に向けた考察 —— 歴史的・相互作用的な観点から ——
限定正社員導入と女性労働力活用の結びつきについての論考 —— 企業経営の視点から ——
教育の側面からひもとくマレーシアのジェンダー格差
フィリピンにおける道徳的対立の考察

わたしだけの服を着る——クレア・マッカーデルに学ぶファッションとの関わり方——
ヘーゲル『精神現象学』における弁証法的運動の構造的演劇性について——「知覚」と「自己意識」の章を中心に——
アニメの死生観形成への活用——『鬼滅の刃』を事例に——
「生活」の技法：森本厚吉の「文化生活」運動から
誰がフェミニストを嫌うのか——ミソジニーと「らしさ」の呪縛
ごみと資源のあいだ
マオリ土地権利抗争の507日——1977年、バスティオン・ポイントから——

*** 国際関係論コース卒業論文 ***

フランスの伝統的アフリカ外交の変遷
サブサハラ・アフリカ諸国における貧困の解決
The Meaning of "Senseless" in Tractatus 6.54: Aspect Perception and the Irrefutability of Philosophical Propositions
トヨタ自動車社長の声明から探る終身雇用崩壊の理由と不確実な時代を生き抜くための新世代型雇用システム
「私」ひとりに眠る、「紛争」と「平和」の可能性：「個人」というミクロな視点から、新たに平和構築を考える。
Human Rights in Media: The Regulation of Freedom of Expression
シンガポールのフェイクニュース規制法から日本における導入の可能性を考える
Space Debris Mitigation: A Perspective on the Formation of Customary International Law
ディズニープリンセス映画はジェンダー問題にどう向き合ってきたのか——実写作品『マレフィセント』（2014）と『アラジン』（2019）の分析を通して——
オーストラリアにおける日本食産業
タンザニア路上商人のウジャンジャな関係
ケニアにおける科学天気予報と農家～農家の天気予報と気候変動に対する認識～
外国人留学生の日本での就職に関する実証分析——日本の留学経験者の増加が与える効果について——
米国ミシガン州における貧困問題——2つの貧困に対する問題提起とアプローチ——
オーストラリアにおける反多文化主義台頭の要因の解明——オーストラリアとカナダの比較分析——
グローバル・バリュー・チェーン内での貿易と雇用
An analysis of Statistical Measures of Collocation from a Pedagogical Perspective
対話型鑑賞教育 Visual Thinking Strategies (VTS) の日本の小学校教育への導入
パレスチナ・コソボ・南スーダンの事例における国際連合加盟の法的効果 - 国連による加盟承認と国家承認の異同 -
小学校における道徳教育は少年による凶悪犯罪を予防することにつながるのか～佐世保小六女児同級生殺害事件を事例に～
「虹の国」南アフリカにおける反外国人暴力——南アフリカ固有の要因から考察する大規模化のメカニズムと病巣的ゼノフォビア——
シン・フェイン党躍進の背景と考察——2002年以降の選挙結果分析から——
成年年齢引下げの妥当性——意義と課題
日本の地域を活性化させる国際協力に関する一考察
南アフリカにおける労働市場の硬直性が正規雇用創出に与える影響
情報化と民主主義——ケンブリッジ・アナリティカ社のPR戦略の事例から——
コミュニティ・スクールによる学習効果：大分県の事例より
国際航空自由化が日本の空に与えた影響——産業構造変化とLCC——
日本におけるクラフトビール市場のこれから——アメリカ・日本・ドイツ3カ国におけるビール市場の変遷を参考に考察する
AfD 支持層の地域性——計量分析による2017年連邦議会選挙の検討——
EU (CSDP) における文民的安全保障政策の発展——地域紛争に対するドイツの規範が影響を与えた可能性について——
1971-72年の米中交渉における台湾問題——ニクソン政権の利益認識とソ連カードに着目して——
温室効果ガス削減と国際法——慣習法性の検討——
高齢化・グローバル化のなかの日本の医療制度の課題
韓国の文化領域における反日の変化——反日の「日」が意味するものに注目してその変化を辿る——
共通通貨導入の検討要因：ドイツ、ポーランド、チェコ、ハンガリー、スロヴァキア
改正民法における定型約款について

2004～05年のG4による国連安全保障理事会改革の試みが挫折した理由
日本の同性婚法制化に海外の議論は応用可能か～スペインと台湾の事例を参考に～
スポーツを通じた開発と平和の成功要件に関する研究
フランスにおける女性の政治参画促進の取り組み
「中国式援助モデル」の浸透に対する欧州連合の反応——アフリカと東欧における対応の差異に焦点を当てて——
日本のNGOの発展とアジアおよびグローバルな難民保護への影響——活動地域の拡大と任務内容の多様化から——
フランス流入移民と社会保障制度 享受の限界と国際法によるアプローチの検討
イギリス気候変動政策の展望：2008年気候変動法から見る温室効果ガス排出量削減
個人の救済と主権免除原則——強行規範違反の観点から——
「感染症と世界平和」～新型コロナウイルスを敵に回し世界平和を「つくる」ことはできるか～
フェアトレードとジェンダー平等——女性のエンパワーメント効果の有無——
日本社会のねじれ～「世間学」の観点から捉える～
戦後フランス政党政治における政党「国民連合」のポピュリズムへの支持拡大要因分析
Japan's Low-Skilled Foreign Worker Policy: A look at the Technical Intern Training Program (TITP)
フランス国民戦線の台頭——ポピュリズムと経済・社会背景——
国民科地理の性質と地理教育史における位置付けに関する考察
ダークツーリズムのダークサイド——観光の正の効用に隠れる政治的・倫理的問題——
イタリア産業集積の発生要因の分析とその可能性——Made in Italyを支える企業の強さ——
奨学金が教育格差に与える影響に関する実証分析
日本の移住者の貧困：現状と取り組み
ドミニカ共和国における武器密輸の現状と国内法のサステナビリティ
児童の栄養改善を目的とした学校給食プロジェクト実行に関する一考察：エクアドル共和国山岳地帯の小学校における栄養改善事業を事例に
メキシコのストリート・チルドレンと彼らを取り巻く環境の変化——大統領交代と新型コロナウイルスの影響下で——
日本・ブラジル間における移民研究の概要
チリの高等教育政策の独自性と無償化政策について
ヨーロッパにおけるロマの待遇改善に向けたガバナンスの停滞——予算とNGOの観点から——
人権条約の域外適用——紛争と環境損害の観点から——
中米北部三角諸国からの移民に対する米墨各国の対応
EU加盟国国民がEUの正統性を認めるための条件——ポーランドとチェコの比較事例分析より——
自動車多国籍企業のメキシコ経済への功罪：技術伝播と途上国経済
公共投資が経済に与える影響——東名高速道路と第二東名高速道路のデータを用いた実証分析——
大学進学の規定要因：学部が多様性に着目して
メキシコの移民政策の変容と要因分析——移民送出国から移民経由国への役割変化に着目して——
中等教育におけるオンライン授業活用の可能性と危険性——2020年度の新型コロナウイルス感染症拡大による一斉休校期間中の取り組み——
メキシコの社会保障体制における二重構造と医療保障改革
学校での平和教育の批判的分析と理想の平和教育の骨子についての研究
株主アクティビズムに関する中長期的企業価値創造のための法的アプローチ
日本における児童虐待について——カナダ、アメリカとの比較を通じて——
暴力的過激主義者のリハビリテーションにおける脱過激化の実行可能性—コミットメント・レベルの観点から—
ニカラグア共和国における2018年反政府抗議デモの国際システムに基づく原因分析
BRTの有用性と今後の課題——クリチバの公共交通システムを踏まえて——
サイバー攻撃への国際法適用——可能性と課題——
エチオピアの経済成長と貧困削減の成果と今後の課題
日露領土問題の現状と今後の展望～ロシアの二国間関係に着目して
核兵器廃絶へのアプローチの検討——多国間核軍縮体制を俯瞰して——
3タイプ別フィットネスクラブ間の比較に関する研究
夫婦同氏制の問題の分析——選択的夫婦別氏制度の導入実現に向けて——
インターネットにおける名誉毀損

日本国内におけるキャリア教育とキャリア理論の「距離」の概観の試み
日本における教育格差と世代的再生産の実態
民間軍事会社（PMSC）の台頭とその国際平和活動の可能性について
沖縄に集中する米軍基地と日米地位協定の問題点
中国の香港介入に対する「外圧」と「内圧」の成果の検証 —— 天安門事件後と比較して ——
中国の台頭と日本企業の対外直接投資の動向 — 企業の進出・撤退に対する政策効果分析 —
「悪霊」に抵抗する者たち —— 蘭嶼における構造的暴力と社会運動 ——
バーゼル条約 BAN 改正の課題 —— 発効に至る背景に着目して ——
異文化コミュニケーションにおける障壁とその解決策についての考察
日本における「中国脅威論」拡大過程の考察 —— 経済アクター・政治アクター・市民の対中認識の比較分析 ——
日本における持続可能な国際協力 —— 資金調達の方法としてのクラウドファンディングの可能性 ——
学校制服がもたらす影響と将来性 —— 女子学校制服の誕生から普及までの歴史を参考に ——
欧州諸国はなぜシリア難民問題の解決に失敗したのか —— 国際制度面からの実証研究 ——
東南アジア投資戦略としての国際仲裁制度の活用
日系食品企業の東南アジアにおける立地選択要因に関する実証分析
1990 年代後半、なぜコンゴ戦争は泥沼化したのか？ —— 砂時計モデルを加速させるスプイラーと政治的惰性を因る域外大国
インドネシアの民主化～フィリピンとの比較において～
株式誤発注と法制度
「ロヒンギャ」問題に対する ASEAN 諸国の地域的対応の阻害要因：ASEAN の制度的問題と中国の二国間関与政策の影響
看護師・介護福祉士分野での EPA によるインドネシア高齢者介護への貢献の可能性
RMA としての南北戦争以後の米海軍改革：RMA は如何にして達成されるのか
カンボジアにおける観光業の現状と今後の展望について —— 多角的に観光業界の課題を考える ——
統計的因果探索モデルの汎化能力の比較
JCPS・JHPS/KHPS から探る 就学前教育と学力の関係
大学生のボランティア観に関する研究 —— 日本とインドの比較からの一考察 ——
インド人民党の二つの政権におけるヒンドゥー・ナショナリズム
コロナ禍無観客試合における、イングランド・プレミアリーグのホームアドバンテージについて
日本における外出自粛行動と社会資本の関係に関するモビリティデータ分析
BJP 政権における公衆衛生改善政策の意義
日本におけるフェアトレードの社会的受容に関する研究
在イラク・シリア派宗教界の公的主張と利害 —— コミットメント論から ——
難民移民が日本にもたらす経済的影響に関する考察
日本の援助政策における質的「変化」不在の要因の検討 —— 米韓との比較分析から ——
監視社会が創るガラスの檻 —— 中国とアメリカの事例から考えるテクノロジーとプライバシー ——
サッカー男子日本代表の勝利の女神は何に引き寄せられるのか
「ワシントン・コンセンサス」と「北京コンセンサス」の相違点 ～アンゴラの事例を通して～
デジタル化社会におけるプロファイリングと法規制の在り方
再婚禁止制度に係る法的問題について
ベトナムの経済発展に及ぼすソーシャルメディアの影響
自由貿易が中国の地域格差に対する影響の実証分析
バングラデシュにおける女性の社会進出の阻害要因に関する考察
ソーシャルビジネスの考え方と発展
再生可能エネルギーは持続可能な社会の形成に寄与しているのか
Ainu and Sami: The Distinct Compliance to International Human Rights Law Towards Indigenous Peoples in Japan and Norway
Why do young people get inadequate support from the government?: A Study on Political Coalition of Young people in Japan
The impact of economic freedom on corruption: Disparity between rich and poor countries
The shift of power in the Japanese society in regards of gender: inequality

※ 2021 年 1 月に提出された国際社会学部の卒業論文、卒業研究のタイトルです。

国際社会学部 教員一覧

国際社会学部で専修プログラムの授業を担当している専任教員の一覧です（この一覧には卒業演習を担当していない教員も含まれています）。

■地域社会研究コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
青木 雅浩	モンゴル地域研究、モンゴル史、中央アジア・東北アジアの近現代国際関係史	826	masamon@tufs.ac.jp
青山 弘之	現代西アジア・北アフリカ（中東）地域の政治、思想、歴史	837	aljabal@tufs.ac.jp
足立 亨祐	南アジア地域研究（ヒンディー）、インド近現代史、言語・社会研究	802	adachi.kyosuke@tufs.ac.jp
伊東 剛史	イギリス史、アイルランド史	626	t.ito@tufs.ac.jp
大石 高典	アフリカ地域研究、生態人類学、文化人類学、地球環境学	506A	takanori@tufs.ac.jp
大鳥 由香子	アメリカ研究、アメリカ史、グローバル・ヒストリー	659	yukako.o@tufs.ac.jp
小笠原 欣幸	現代台湾政治、台湾の選挙、中台関係	858	ogasawara@tufs.ac.jp
小田 なら	東南アジア地域研究、ベトナム現代史	514	HP で確認してください
小田原 琳	イタリア近現代史、イタリア地域社会研究、国民国家形成、ナショナリズム、ファシズム、ジェンダー、人種主義、ボーダーランド	760	rodawara@tufs.ac.jp
川本 智史	建築史、都市史、オスマン史	806	skawamoto@tufs.ac.jp
菊池 陽子	東南アジア近現代史、ラオス近現代史	639	kikuchiyoko@tufs.ac.jp
木村 暁	中央アジア史、中央アジア地域研究	834	s_kimura@tufs.ac.jp
久米 順子	西洋美術史、キリスト教文化、西欧文化、スペイン美術史、中世美術史	726	kumejun@tufs.ac.jp
倉田 明子	中国近代史、香港・南中国地域史	853	akurata@tufs.ac.jp
坂井 真紀子	アフリカ地域研究（社会学）、農村と都市、伝統的生業（農業・牧畜など）と現金収入、マイクロファイナンス、トンチン	720	sakai_makiko@tufs.ac.jp
澤田 ゆかり	中国・香港を対象とする地域研究（社会保障、労働関係、産業、ジェンダー事情）	852	sawada@tufs.ac.jp
篠原 琢	中央ヨーロッパ史（ハプスブルク帝国史、チェコスロヴァキア史、チェコ史、ガリツィア史 - 現在のポーランド、ウクライナの一部）、特にその近・現代史。	718	takus@tufs.ac.jp
鈴木 義一	現代ロシア経済論、ソ連経済史、比較経済体制	704	ysuzuki@tufs.ac.jp

芹生 尚子	フランス近世史、啓蒙の時代、フランスの歴史、軍事史、民衆の歴史、司法慣行の歴史	761	nseriu@tufs.ac.jp
左右田 直規	島嶼部東南アジア近現代史、マレーシア政治社会史	601	soda@tufs.ac.jp
高橋 均	ラテンアメリカ地域研究	732	hitoshi.takahashi@tufs.ac.jp
巽 由樹子	ロシア史、メディア史	703	tatsumi@tufs.ac.jp
千葉 敏之	ヨーロッパ・地中海世界の中世史 (キリスト教の歴史、建築物=図像解釈、資料体学)	649	t-chiba@tufs.ac.jp
友常 勉	日本思想史、日本近現代史、社会運動史、日本のマイノリティ、宗教と芸能	707	ttomotsune@tufs.ac.jp
登利谷 正人	南アジア地域研究・近現代史 (パキスタン・アフガニスタン)	851	HP で確認してください
丹羽 泉	宗教学、宗教社会学 (朝鮮宗教論・朝鮮文化論)	860	niwa@tufs.ac.jp
萩尾 生	バスク地域研究、言語社会学	728	shohagio@tufs.ac.jp
福嶋 千穂	近世ポーランド・リトアニア史、ウクライナ史	717	fsch@tufs.ac.jp
藤井 豪	朝鮮近現代史、現代韓国社会、在日朝鮮人文学、現代思想史	857	nareh0810@tufs.ac.jp
ポーター ジョン	都市社会史、地域史、民衆史、古文書学	522	jporter@tufs.ac.jp
舩方 周一郎	国際関係論、ラテンアメリカ政治 (ブラジル)、比較地域研究	618	s-masukata@tufs.ac.jp
宮田 敏之	東南アジア経済研究、タイ地域研究、タイ社会経済研究	531	tmiyata@tufs.ac.jp
山内 由理子	文化人類学、先住民研究、オセアニア	625	yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp
ルシオ デ ソウザ	History, Politics, Economy, Culture	617	sousa.lucio@tufs.ac.jp

■現代世界論コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
岩崎 稔	哲学、政治思想、ヘーゲル哲学、フランクフルト学派、戦後日本思想、集合的記憶、「想起の文化」と歴史	518	minorui@tufs.ac.jp
上原 こずえ	社会学、社会運動史、沖縄現代史、島嶼社会論	551	uehara@tufs.ac.jp
大川 正彦	政治学 (政治学原論、政治思想史、政治理論・政治哲学)、倫理学、社会理論	546	okawa@tufs.ac.jp
小野寺 拓也	ドイツ近現代史、ナチズム、ジェンダー史 (男性史)、日常史	647	tonodera@tufs.ac.jp
加藤 美帆	教育社会学、家族社会学、ジェンダーと教育	528	mihokato@tufs.ac.jp

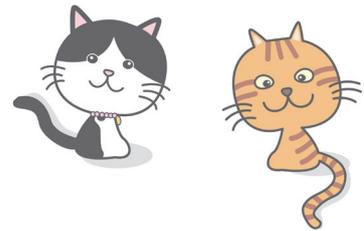
金 富子	ジェンダー論・ジェンダー史、植民地期朝鮮教育史、 植民地遊廓／現代の性売買研究、性暴力研究	552	hanul27@tufs.ac.jp
田邊 佳美	国際社会学、フランスの移民・ナショナリズム・人 種的／性的マイノリティの反差別運動、記憶の政治	723	yoshimi.tanabe.i@tufs. ac.jp
東城 文柄	南アジア地域研究（バングラデシュ）、地域情報学、 環境保全論、地球環境変化と健康	506	HP で確認してください
中山 智香子	グローバルスタディーズ、現代経済思想、社会思想	504	nakac@tufs.ac.jp
古川 高子	近現代ヨーロッパ史、ナショナリズム、社会と自然 の歴史	559	furukawa@tufs.ac.jp
真島 一郎	文化人類学、社会思想、西アフリカ民族誌	503	imajima@tufs.ac.jp
吉田 ゆり子	日本近世史、社会・文化・政治・経済・ジェンダー	819	yoshida.yur@tufs.ac.jp
米谷 匡史	日本思想史・社会思想史、アジア／日本の思想・文 化史、東アジア植民地研究	820	yonetani@tufs.ac.jp

■国際関係論コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
伊勢崎 賢治	国際紛争、平和構築・紛争予防、国連平和維持活動、 国家建設、安全保障、自衛隊、日米安保、国際開発、 NGO、貧困・格差、社会運動	526	kenji-isezaki@tufs.ac.jp
内山 直子	開発経済学、ラテンアメリカ経済	731	n.uchiyama@tufs.ac.jp
岡田 昭人	比較教育学、異文化コミュニケーション、国際教育 協力	532	aokada@tufs.ac.jp
蒲生 慶一	マクロ経済学、日米欧の先進国経済	557	gamou@tufs.ac.jp
篠田 英朗	国際関係論	505	hshinoda@tufs.ac.jp
鈴木 美弥子	民法、消費者法、環境法	555	mysuzuki@tufs.ac.jp
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論、国際協力論	401E2	shinichi_takeuchi@tufs. ac.jp
田島 陽一	国際経済学、開発経済学、メキシコ経済論	556	tajima@tufs.ac.jp
出町 一恵	国際経済論、国際金融論、開発経済論、資源国経済	830C	k.demachi@tufs.ac.jp
中山 裕美	国際政治学、国際協調、地域協力、移民・難民問題	830A	yumi-nakayama@tufs.ac.jp
松隈 潤	国際法	550	jmatsukuma@tufs.ac.jp
松永 泰行	比較政治学、政治社会学（争議政治）、国際関係論、 国際政治学	524	matsunaga@tufs.ac.jp
若松 邦弘	比較政治（先進諸国）、西欧政治、社会争点（民族・ 移民、環境など）の政治	661	kwakamat@tufs.ac.jp
渡辺 周	経営戦略論、経営組織論	830B	shu.watanabe@tufs.ac.jp

学生によるゼミ案内

～うちのゼミ紹介します！～



国際社会学部では、3年生からゼミを履修します。教員の指導を受け、ゼミ仲間との議論を経ながら自分の研究を磨き、最後に卒業論文としてまとめることになります。

…といっても、ゼミの具体的なイメージがなかなか湧かない、という学生も多いのではないのでしょうか。そこで、既にゼミを経験した皆さんの先輩の声の一部を、ここに紹介します。ゼミ生の声から、ゼミの雰囲気を感じてみてください。

（地域社会研究コース 青木雅浩ゼミ）

一なぜ論文を書くか。この問いが青木ゼミの出発点です。卒業論文を執筆する理由やその問題設定、実証研究の方法などについて、先生からのヒントをもとに意見を出し合いながら答えを探っていきます。その後個々人で卒業論文のテーマを設定し、関連するディシプリンや先行研究の傾向、具体的な研究方法などについて発表を通して検討を重ねます。

少人数（2020年度は10名以下）のゼミなので、和気藹々としており発言もしやすい環境です！発表に対する質問や意見交換も忌憚なく行われており、その度に刺激を受け新たな発見があります。個人プレーで卒業論文を執筆するというより、先生からのご指摘を踏まえつつゼミ生同士で知恵を寄せ合い、互いの論文の質を磨き上げるべく協同する文化が青木ゼミには根ざしていると思います。青木先生ご自身のモンゴルでの体験談や、研究者としてのキャリアのお話を伺うことができるのも青木ゼミの醍醐味の一つですよ！（石橋 実和子）

（地域社会研究コース 青山弘之ゼミ）

青山ゼミでは主として近現代中東政治について学びます。3年のゼミでは、近現代中東政治に関する著作を選択して、全員で読み進めていきます。各回では担当者が論文のテーマ（例えば政治、経済、社会などなど）に関して自ら問いを立て、自ら調査を行い、問いに対する答えを発表します。問いの例として、「化学兵器使用疑惑はシリア内戦に対してどのような影響を与えたのだろうか」や「パレスチナの西岸地区においてなぜ農業分野は重要な産業セクターであるにも拘わらず発展しきれていないのか」などが挙げられます。ゼミでの発表や卒論において、中東地域に関することであれば、基本的にどのようなテーマでも研究することができます。

青山先生からの丁寧なフィードバックとゼミメンバーでの議論を通して、論理的な思考力・論述力が鍛えられます。ゼミのおかげで論文やレポートを書く際の論理構成や語彙選びに磨きがかかったように思います。

中東地域に興味があって、論理的な卒論を仕上げたい方は是非青山ゼミへ！（東 大晴）

（地域社会研究コース 大石高典ゼミ）

大石ゼミのキーワードは「フィールドワーク」です。フィールドワークを通じて〈他者〉と出会い、理解し、時には自分自身のこととも振り返ってみたりしながら、人間の生のあり方について考えます。したがって、研究テーマはゼミ生の興味・関心の数だけあるという、かなり自由度の高いゼミとなっています。

三年生の春学期には、みんなで本を一冊選んでそれを輪読します。秋学期には、各自が関心を持つ研究テーマや方向性について発表します。「ミャンマーのお弁当事情」「先住民とアルコール・ドラッグ」など個性豊かなテーマが飛び出してくるので、毎週が「おもしろい！」との出会いです。

時には研究が停滞したり、関心が移り変わることもあります。が、「まあそういうもんだよね」というのが大石ゼミのスタンスです。とにかくやってみること。頭だけでなく、身体や五感を使って学問をする。それができるのが大石ゼミの特徴であり、魅力でもあると思います。（田津 真里恵）

(地域社会研究コース 大石高典ゼミ)

2年間の休学明け。僕はシラバスをしらみ潰しに見てた。何かが心に響いて、その研究室のドアを開けた。僕が潜り込んだのはおいしいゼミこと、大石ゼミ。大石ゼミの面白さはなんといっても、豊富な対話にあった。怪しげな乾燥した獣肉を食べながら、琵琶湖の鮎寿司を食べながら、議論と対話を重ねていく。その中で、論文が決して机上の空論とならないように、確実に学生一人一人の人生と研究内容が重なり、その学びが血肉となるようなフィールドとテーマが決まっていく。僕は本ゼミでお行儀の良い文化人類学を学び、大石ゼミで体当たりの五感に満ちた人類学を学んだ。一つの学問分野自体の理解を深めること。そのためにも興味のあるゼミの扉を叩くのは非常におススメである。(高野 翔悟)

(地域社会研究コース 小田原琳ゼミ)

このゼミでは、近現代イタリアについて学ぶことを通して、ある特定の地域を、歴史や文化を含む全体として理解し、その課題を知っていきます。イタリアのみを見つめるのではなく、時間的にも空間的にも広い視野をもつことが求められます。そして、これは、自分自身が生きている社会を問い直すことへとつながります。具体的には、文献の講読や書評論文の執筆をします。学生が分担して発表し、議論を深めていきます。ただ単に文献を正確に読むのではなく、そこから自分の考えたことを言葉にしてあらわし、先生や他の学生と共有することが重要になります。このような活動を通して、それぞれの学生の興味関心や問題意識にもとづいて卒業論文のテーマを決めます。「学ぶ」ということを通して、自分自身と向き合うことができるゼミです。(小林 史緒)

(地域社会研究コース 菊池陽子ゼミ)

私たちがこのゼミを選択した理由は、東南アジアに関する幅広いテーマを卒業論文の題材として扱えるためです。研究の自由度が高いため、卒業論文の題材が決定している方も、検討中の方にもお勧めできるゼミです。また、ゼミの学生がそれぞれ国やテーマの異なる研究を行っているため、様々な視点から物事を見て、互いに刺激を受けることができる点も魅力の一つです。ゼミの授業では、東南アジア大陸部に関するあらゆることを学んでいます。自身の興味・関心のある文献を読み他の人に紹介する授業や、全員で初のカンボジア語新聞を読み、意見を交換し合う授業もありました。また、ASEANについてまとめ、多摩コロキウムで他大学の生徒に発表したこともあります。東南アジアなら自分の専攻している以外の地域のことについても学べるため、東南アジアについて包括的に学びたい方にお勧めです。(川越 凧歩、三好 佐夜子)

(地域社会研究コース 木村暁ゼミ)

中央アジアやその周辺地域に関心のある学生が集まり、歴史的・現代的諸問題について資料の読解や議論を通して理解を深めていくゼミです。ロシア語・ウズベク語・ペルシア語・モンゴル語など、様々な言語を専攻する学生の集まる木村ゼミは、まさに中央アジア地域の多様性を表していると言えるでしょう。ゼミでは毎週、各学生の興味や関心に従って史料や報道記事、論文を読み込み、学生主体で議論を行います。書かれている事柄の多角的な観察や、書かれていない事柄の検討などを通して、資料の読みこなし方を一歩ずつ身に付けていきます。1人では理解の難しい資料を、先生の力も借りながら皆で読み解く快感は、ゼミで学ぶことの醍醐味でしょう。また、学生の興味が非常に多岐にわたるため、例えば「自身が関心のある古代ペルシアの軍事政策への理解を深めつつ、ゼミの仲間が関心を持つ現代ウズベキスタンのジェンダー問題についても学ぶ」といったつまみ食いもできてしまう大変おトクなゼミなのです。(矢口 基士)

(地域社会研究コース 坂井真紀子ゼミ)

坂井ゼミはアフリカ地域に関心をもつ学生が集まっています。指導して下さる坂井真紀子先生は農村社会学を専門にされていますが、ゼミ生の関心は広く、教育・政治・ジェンダー・経済・環境、と様々です。一見どれも繋がりがなく見えますが、実は深いところで繋がっています。特に「先進国、先端技術＝優れているのか」という問いは関心領域は違えど、ゼミ生共通の問いでもあります。基本は個々に研究を進め、定期的に自身のテーマや研究進捗について発表します。異なるテーマを探究するゼミ生からの指摘は、自分にはない視点をもたらしてくれます。また昨年10月に開催された多摩地区合同コロキウムではアフリカの医療について先端的な事例、元来根付く文化など伝統的事例の両軸からアプローチを試み、両者の共存の可能性について発表しました。多様性の大陸とよばれるアフリカのように多様性に富んでいるゼミです。興味のある方はぜひ見学へいらしてください。(守屋あゆ佳)

(地域社会研究コース 巽由樹子ゼミ)

巽ゼミでは先生のご専門である社会史・文化史(ロシア近代史、メディア史)をはじめ、歴史・宗教・音楽・建築など多様な分野の研究を行っています。

具体的には、3年春は日本語テキストの講読と自分の興味分野についてのプレゼンを、3年秋はロシア(ソ連)の雑誌の読解を行いました。

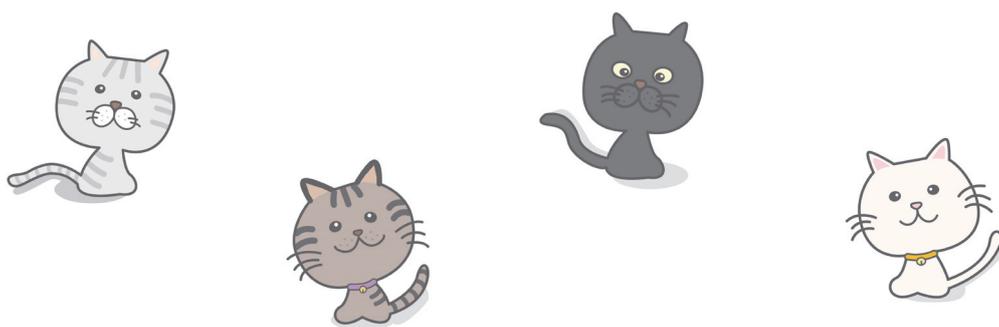
ロシア周辺の研究分野において、政治経済よりも社会や文化に興味があるなら、巽ゼミになると思います。現段階で卒論テーマが決まっている方もそうでない方もいると思いますが、個人の関心の高さや知識の量に合わせて、どんな興味分野でも(!)巽先生が的確にご指導下さるので心配はご無用です。

巽ゼミに集まる学生は、現ゼミ生で言えば絵本から国家史まで等々、興味の幅が広いことが特徴です。そのため、互いに知識や経験を共有し合うことで自分自身のフィールドを深く広くしていくことができ、私はそこが巽ゼミの魅力の一つであると思います。どんな形でもロシア地域に関心があるなら、有意義なゼミ時間になること請け合いです!(上野 葵)

(地域社会研究コース 千葉敏之ゼミ)

5世紀から15世紀のヨーロッパ。千葉ゼミでは一人一人が、その1000年の間の一瞬を切り取り、そこに存在した人、書物、思想等に、様々な切り口から向き合い、探求します。ここで自分が向き合う対象は、時代の一瞬にも足りないものかもしれませんが、その対象となるテーマこそが、中世ヨーロッパ史において大きな意味を成してきたのです。「未知」と出会い、探求し、解き明かしていく千葉ゼミで過ごす時間は、決して簡単なものではありません。「自分との闘い」…そんな表現がぴったりなゼミだと感じます。しかし、誰よりも新たな「知」との出会いを喜び、その楽しさを教えて下さる千葉先生や尊敬できる素晴らしいゼミの仲間たちから受ける刺激、また、自分で壁を越えて見えた世界は何ものにも代え難いです。学生生活の集大成となるだけでなく、卒業論文を書き終え、卒業する時、そこには今後一生胸を張って誇れる自分自身との出会いが待っているはずで

(山川 佳穂)



(地域社会研究コース 藤井豪ゼミ)

藤井豪先生のゼミは韓国現代史を中心とした歴史学ゼミです。歴史学というと、高校時代の暗記科目の歴史を思い浮かべるかもしれませんが、そんな固定概念を覆し、歴史との向き合い方、歴史の一部である私たちが生きる世界の見方など、幅広く学ぶことができます。学生の関心分野を尊重していただき、歴史学を基盤としたさまざまな角度からのアプローチで理解を深めていくことができます。

ご専門は朝鮮解放後八年に焦点を当てた政治思想史です。ジェンダーや人権問題など、現代の社会問題についても学ぶことができます。京都大学で学士、大阪大学大学院で修士修了後、韓国現代史研究の第一人者である徐仲錫氏の弟子として研究し、成均館大学大学院で博士号を取得されています。20年間韓国で研究、活動されていた経歴のため、韓国の実情に詳しく、様々な知見を共有していただけます。

韓国・朝鮮半島を研究したい学生に最適です。後輩のみなさんをお待ちしています！（田中 千尋）

(地域社会研究コース 舩方周一郎ゼミ)

私たち「ブラジル地域研究ゼミ」の魅力は、なんといってもその取り扱う題材の豊富さです。

貧困や政治経済から環境、開発、ジェンダー、移民など多岐に渡るため（ラテンアメリカを起点に「全世界」が対象!!!）、毎週新たな知識が身に付き、新たな発見を得られるといった点で非常に新鮮な時間を過ごすことができます。

またこういった社会問題というものは、実は全てが我々の気づかないところで密接に絡み合って構築されているものであるため、予想もしないところで他者の知見が自身の研究に役立つこともあり、こちらも当ゼミの面白さの一つとして挙げられるでしょう。ゼミの雰囲気としては、先生・学生問わず全員仲が良く、授業外でのアクティビティも今年は少しずつ開催して行きたいと考えています。

加えて、去年は他大学や卒業生との交流会もオンラインを通じて開催するなど、日ごろ外大内で味わうものとはまた一味違った刺激を受けることもできます。（荻野 耕平）

(地域社会研究コース 宮田敏之ゼミ)

タイ語専攻の学生に限らず、東南アジアの幅広い言語を専攻する学生が集い、和気あいあいとした雰囲気の中で意見を交わし合うことができます。特に、東南アジア地域は国や地域によって宗教や生活様式などその文化は多種多様であり、言語もしかり、独自の発展を遂げていることが特徴です。社会情勢も全く異なるため、ゼミでの情報交換は常に刺激的で新鮮でした。それぞれ興味の対象が異なるなかでも、調査や分析の手法について分野横断的に宮田先生にご教授いただけたので、皆が自らの知識や経験の集大成として、自らの言葉で論文を仕上げることができたと思います。主専攻での学びを経て、ゼミという場で改めて主専攻ではない国や地域の話に触れることで、多角的な視点を得ることができ、より広い視点で研究内容を捉え直しながら学びを深められたことは、大変有意義でした。（佐々木 優衣）

(地域社会研究コース 宮田敏之ゼミ)

宮田ゼミでは主に東南アジア経済について学びます。しかし一口に経済と言っても、理論や数式を学ぶわけではなく、東南アジアの歴史、政治、文化、社会情勢など、様々な切り口から経済動向を捉え議論を深めます。したがって、経済を一つの軸としつつも、ゼミ生の関心がある分野は多種多様です。私はタイのスマートシティ政策を卒業論文のテーマに掲げていましたが、ある人はタイの現代美術と企業メセナ（企業が芸術・文化活動を支援すること）の関係、ある人はインドネシア人の訪日観光をテーマとしていました。そのため、ゼミ生同士で互いのテーマについて議論を進めると、いつも新鮮な発見があり、自身のテーマについても形式や枠に捉われない研究を進めることができます。地域研究として、自身の関心のある地域について分野を問わず理解を深めたい人は、ぜひ宮田ゼミと一緒に勉強しましょう。（菊池 峻汰）



(現代世界論コース 上原こずえゼミ)

上原ゼミは 2019 年度から始まった新しいゼミです。各学生は社会学を軸にそれぞれのテーマの研究を行っており、2020 年度 3 年生のテーマは難民、講釈、食選択、ジェンダー、アイドル、観光と多岐に渡ります。(関心に応じて、研究テーマの変更にも柔軟に対応していただけます！)

授業では社会学や社会調査に関する共通文献の購読や、各自の研究報告を行います。また、夏にはゼミの代表が電通大、農工大、外大の 3 大学で行われる多摩コロキウムに参加し、ゼミ生以外の前で研究発表を行っています。

当ゼミの魅力は、①学生の主体性を尊重する懐の深さ、②自分の知らない研究テーマ、地域を扱うゼミ生たちと刺激し合える環境、③可愛くて優しい先生！！です。

社会学をやりたい方はもちろん、自分の研究したいテーマを扱えるゼミが外大にはないかも…と悩まれている方も、ぜひ一度ゼミ見学にいらしてみてください！(澤田 まりん)

(現代世界論コース 小野寺拓也ゼミ)

【ゼミの活動】

三年次前期は、指定された文献講読を進めることで、文献から問いを立てる能力や、文献の要約能力、発表能力などを培うことを目標にします。三年次後期ではテーマと問いを立て 8000 字以上の小論文を執筆します。四年次ではそれぞれ問いと本テーマを定め、一年をかけた文献の読み進め、卒論の執筆を行います。

【小野寺ゼミの面白さ】

「歴史学は根性である。」卒論を書き終わり、最も心に残っている小野寺先生の言葉はこの言葉です。良い問いをたてる発想力だけでなく、それを裏付けるための膨大な文献を読む根気、そして自分のもやもやとした問題意識にできるだけ肉薄し言語化してまとめていくガッツ…全てにおいて根性が必要でした。そういった意味では自律心や能動性、積極性が不可欠なゼミだと思えます。しかし頑張ったその分だけ、先生も応じてくれますし、自分の変化は誰よりも自分が感じます。二年間をかける価値のあるゼミだと強くお勧めします。(赤岩 真詠)

(現代世界論コース 真島一郎ゼミ)

まじまゼミには様々な語科から学生が集います。興味分野も芸術や哲学、文学などバラバラです。けれど世界のどこかの遠い話に見えても、本当に考え抜いた先には、イマココの自分が立っているのです。神は細部に宿るのです。

自分が知らないゼミ友の発表には、なかなか素人質問しかできません。でも実はその質問が、時に本質的な問いとなって役立つのです。

私たちに共通しているのは、まじま先生のごことが大好きなことです。私はまじま先生の訥々とした優しい喋り方にまず惹かれたのを覚えています。その後まじまゼミに決まってからは、先生おすめの本と向き合う等して、3 年生の春学期を迎えました。ちなみに私たちの代は中止となりましたが、例年夏にゼミで旅行合宿に出かけています。

私たちが立っているイマココの危うさも、恵まれていることも、欠けている何かについても考えぬきましょう。一人では辛くても、皆と一緒にならきっと考えられるのですから。(中矢 温)

(国際関係コース 岡田昭人ゼミ)

岡田ゼミの特徴は、何といても「生徒主体」なことです。

ゼミでは生徒によるディスカッションやプレゼン、ロールプレイなどがメインになるため、座学だけで終わらない授業に魅力を感じる方大歓迎です！夏前にはゼミ合宿があり、夏以降は留学を推奨されていることもあり留学する人が半分くらいいます(年度による)。とはいえ、この文章を私がゼミ選択前に読んだら、なんだかハードルが高そうで敬遠するかもしれない…ということで、まずは岡田先生の授業を受けてみることをオススメします。少しでもゼミの雰囲気はわかるはず。実際私も 1 年生の時に先生の授業を受けて、このゼミに興味を持ちました。この文章で面白そうと感じてもらえるかはわかりませんが、とてもユニークなゼミなので必然と楽しい人達が入ってきます。そんなゼミに少しでも興味があれば、ぜひ岡田ゼミも候補の 1 つに入れてみてください！

(八巻 祐香)

(国際関係コース 中山裕美ゼミ)

このゼミには幅広い地域、多様な興味を持った学生が所属しています。ゼミでは自分の専攻地域や興味のある分野のことを扱う日もあれば、全く違うことを扱う日もあります。しかし、国際政治学で扱う様々なグローバルイシューはそれぞれが一見かけ離れているように見えて共通する部分がありつなっていて、あるグローバルイシューに対する分析の手法や視点を他のものに応用できることはよくあることです。ゼミでの議論を通し、専攻地域が違い興味のある分野も違う学生から自分にはない視点を得ることができ、幅広い見識を広めることができます。それぞれが違う知識を持ち寄って議論を交わすのはとても楽しいです。

先生は卒論の時期になると人が変わるとよくおっしゃっています。実際に卒論執筆には厳しい指導、添削が入るようです。ですが、それは言い換えれば、もう一つ特徴として挙げられる先生の「面倒見」の良さとも言えるのではないのでしょうか。(北村 泰生)



* サブゼミとは？

本学では、指導教員とは別の教員が担当するゼミを履修することも可能です。このことを、通称「サブゼミ」と呼んでいます。皆さんの先輩の実体験から、サブゼミの利用法を見てみましょう(なお、全てのゼミがサブゼミを開講しているわけではありません。サブゼミを履修する際には、必ずその担当教員と事前に相談しましょう)。

地域社会研究コースでは「①どの地域の②どんな対象を研究するか」という2つの軸に従って問題設定を考える必要があります。そこで、地域と対象のそれぞれの知識を深めるためにサブゼミが役立ちました。また、それぞれのゼミで研究対象へのアプローチの手法や、所属するゼミ生の興味・関心が異なるので、1つのゼミだけを受講するよりも多面的な刺激を受けることができます。

私の場合は「ロシアの宗教」というテーマに興味があり、ロシア史(語科ゼミ)と宗教学(トランス・リージョナル)の両方のゼミを受講しました。2つのゼミを通して、ロシア地域に関する知識と議論を深め、ロシア語の実践的運用をしながら、宗教という対象へのアプローチを学び、他地域の様々な宗教についての議論にも触れることができました。

ゼミは少数で専門的なテーマについて議論ができる貴重な機会です。ぜひ本ゼミに加えてサブゼミの機会も活用してみてください。(中崎 諒)

私は、東南アジア経済論ゼミ(本ゼミ)と東南アジア島嶼部歴史社会論ゼミ(サブゼミ)との2つのゼミに所属していました。東南アジアについて満遍なく学び、また2つのゼミで幅広い問いに触れる中で、知的好奇心を満たしつつ真に関心のある研究対象を見つけたからです。私は最終的に、「企業」という存在に興味を持ち東南アジアの財閥同士の資本提携についての卒業論文を執筆しました。経済系のテーマではありますが、そもそも「企業」に興味を持ったのは、本ゼミの影響は勿論、サブゼミで「国家」や「民族」といった切り口で世の中を分析する仲間に刺激を受け、自分は「企業」という切り口で世の中を分析したいと思ったことや、サブゼミの先生に勧められた書籍に刺激を受けたことも大きな要因でした。もし興味関心の対象をまだ絞れない方は、サブゼミを履修することで存分に知的好奇心を追求した上で研究テーマを選んでも良いのではないのでしょうか。(上月 健)

私は、本ゼミとしてロシア地域研究が専門の鈴木義一先生のゼミに所属する一方、サブゼミとして近世ポーランド・リトアニア史、ウクライナ史が専門とされている福嶋千穂先生のゼミに出席していました。私は現在、鈴木先生のゼミでウクライナの汚職問題をテーマに勉強しており、もともと歴史研究を専門にする気はありませんでした。サブゼミの受講を決めたのは、福嶋先生のゼミでポーランド・リトアニア大公国の歴史を学ぶことで、ウクライナという国のバックグラウンドをより深く知りたかったからです。春学期にはポーランド・ナショナリズムに関する文献の講読を行い、秋学期には、先生のご専門や私個人の興味関心とは異なるテーマになりますが、近世ヨーロッパの翻訳文化について講読しました。また、他のゼミ生のユニークな個人発表を聴くこともできました。サブゼミの受講は講義科目を受講するより大変かもしれませんが、よい経験になると思います。(佐野 智仁)

卒業後の進路

就職（2015年度～2019年度の主な就職先）

公務	(株) アイデア・インスティテュート
外務省	デロイトトーマツコンサルティング(同)
防衛省(※自衛隊等含む)	アンダーソン・毛利・友常法律事務所
国土交通省	(株) クニエ
警視庁	森・濱田松本法律事務所
東京都庁	(株) セプテーニ・ホールディングス
製造業	(株) 野村総合研究所
(株) ブリヂストン	PwC コンサルティング合同会社
(株) 小松製作所	情報通信業
沖電気工業(株)	日本放送協会(NHK)
日本電気(株)(NEC)	(社) 共同通信社
富士電機(株)	日本オラクル(株)
(株) 豊田自動織機	(株) 朝日新聞社
日産自動車(株)	(株) 日本経済新聞社
トヨタ自動車(株)	読売新聞グループ
ダイキン工業(株)	(株) NTT データ
パナソニック(株)	グーグル(同)
スズキ(株)	ソフトバンクグループ
本田技研工業(株)	日本ビジネスシステムズ(株)
富士通(株)	(株) ワークスアプリケーションズ
三菱電機(株)	金融業、保険業
富士フイルム(株)	(株) 三井住友銀行
(株) 日立製作所業	大和証券(株)
J X T G エネルギー(株)	(株) みずほフィナンシャルグループ
(株) 東芝	(株) 損害保険ジャパン日本興亜
日本製鉄(株)	東京海上日動火災保険(株)
三井化学(株)	SMBC 日興証券(株)
横河電機(株)	三井住友海上火災保険(株)
京セラ(株)	(株) ジェーシービー
カシオ計算機(株)	明治安田生命保険(相)
住友電気工業(株)	三井住友信託銀行(株)
三菱自動車工業(株)	卸売業、小売業
矢崎総業(株)	三菱商事(株)
日本アイ・ビー・エム(株)	住友商事(株)
いすゞ自動車(株)	三井物産(株)
川崎重工業(株)	丸紅(株)
学術研究、専門・技術サービス業	伊藤忠商事(株)
アクセンチュア(株)	伊藤忠丸紅鉄鋼(株)
アビームコンサルティング(株)	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)

豊田通商(株)	サービス業
運輸業、郵便業	(独)日本貿易振興機構(JETRO)
東日本旅客鉄道(株)	(株)パソナ
日本通運(株)	鉱業、採石業、砂利採取業
全日本空輸(株)	国際石油開発帝石(株)
日本航空(株)	電気・ガス・熱供給・水道業
(株)商船三井	電源開発(株)J-POWER
(株)二葉	建設業
(株)日立物流	JFEエンジニアリング(株)
三菱倉庫(株)	生活関連サービス業、娯楽業
郵船ロジスティクス(株)	JTBグループ

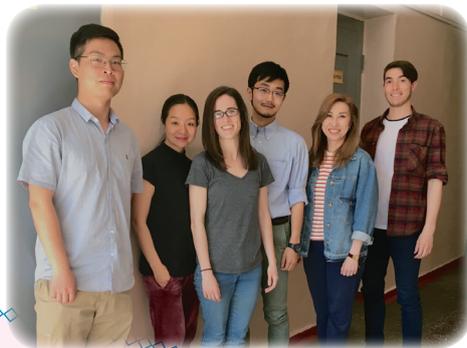
進学（2017年度～2019年度の主な大学院進学先）

東京外国語大学大学院	筑波大学大学院
一橋大学大学院	慶應義塾大学大学院
東京大学大学院	北海道大学大学院
京都大学大学院	東京芸術大学大学院
早稲田大学大学院	首都大学東京大学院

Welcome Messages ～私の進路

田中 聖さん
中央アジア／ロシア語
国際関係コース
松隈ゼミ・4年生（20年度卒）
就職先：外務省

留学中のクラス写真
筆者：写真中央右



2021年度入学の皆様、ご入学おめでとうございます。

私は本学国際社会学部中央アジア地域専攻ロシア語科の田中聖と申します。この4月からはご縁があって、外交官として働き出しますが、この道志そうと思ったきっかけは大学での学びにありました。大学で私が何を修めたか他人に問われると一言では説明できません。専攻語はもちろん他の言語、他の地域、経済、法学、文化人類学、他学部の授業、興味のあることには何でも飛びついていました。今となっては、これこそが国際社会学部の最大の特徴なのだと感じます。換言すると、多様性があり、求めれば学びたいことが見つかる環境に恵まれていたと言えます。留学の機会にも恵まれ、カザフ国立大学への10ヶ月に渡る留学を経験した結果、外交官として他国と日本との関係性を築く仕事がしたいと考えようになりました。外大の諸先輩方は、業界を問わず様々な分野に進まれています、その根底には上述のような多様性のある学びがあるのかもしれない。キャリアル『外交談判法』には「職業や仕事の希望を決める前に、自分自身とよく相談せよ」とありますが、外交官を目指す方にせよ、そうでないにせよ、様々なことは是非チャレンジして、自身に最もそぐう道を見つけられますことをお祈りしています。

Welcome Messages ～私の進路

私が記者を志したのは、自分で見聞きしないと分からない世界があると気づいたからでした。大学1年の夏休み、ショートビジット制度で専攻地域に属するイランを訪れました。外国人客でも女性はヒジャブを付けねばならないという環境だったため、非常に敬虔で、難しい人たちが多いという印象でした。ですが、実際街中ではヒジャブを緩くまとった女性も、肌を見せている人もいて、現地の人たちは温かくて、印象がガラリと変わりました。このとき私は、「自分が思い込んでいて、気づかなかった発見がある、きっとイランだけではなく世界中に。これを他の人にも知ってもらいたい」と思い、記者になることを決意しました。外大には、学生ひとりひとりが自由に学べる環境があります。好きなことを突き詰めて違和感を覚えたり、苦手なものでも向かい合うとすごく奥深かったり。環境も自分自身も、想像以上に大きく変化するのが大学生活です。こうした変化を楽しめて、新しい物事に興味関心がどんどん湧いてくる人は、記者にとっても向いていると思います。自分を取り巻く何気ない日常を、変化を、めいっぱい楽しんでください。そしてその魅力をたっぷり語れる人になってください。

渡辺 佑捺 さん
中東／ペルシア語
現代世界論コース
真島ゼミ・4年生（20年度卒）
就職先：NHK（記者）



日本のとある漁港での1枚。海の向こうに思いを募らせる日々です。



ショートビジットで訪問したイランで

私が大学院への進学を志すようになったのはいつからだったか、正直なところよく覚えていません。ただ一つ確かなのは、国際社会学部であったことが大きく影響しているということです。この先大学生活を送る中で、自らの専攻を尋ねられた時、国際社会学部の皆さんは答えに窮することがあるかもしれません。外大生同士であるならば〇〇語科に通じることが多いですし、そのまま〇〇地域について学んでいる、でも良いでしょう。しかし軸となる地域があった上で、国際社会学部ではさらに多岐にわたる分野からのアプローチが可能であり、語学に留まらない何かを問われるようになります。私自身の研究においても、中国の社会制度を追う中で、歴史や法律を扱うこともあれば、経済の視座も必要でした。これらを他者へ説明をする度に、〇〇学とすんなり言い表せない難しさに頭を抱えながらも、同時にテーマへの考察を深めることとなりました。そうした試行錯誤を繰り返したからこそ、納得のいく研究の方向性と、大学院へと続けていく意志を固められたように感じます。様々な切り口から地域を俯瞰していくことができる、それが国際社会学部の醍醐味ではないでしょうか。私自身もすっかりその奥深さに取りつかれたうちの1人です。

洪 朝陽 さん
東アジア／中国語
地域社会研究コース
澤田ゼミ・4年生（20年度卒）
進学先：東京外国語大学大学院

学生生活で困ったら

TUFS Academic Support Center (たふさぼ)

～みなさんの大学時代の学びを支える場となることを願って～

東京外国語大学では、学生のみなさんの学修をよりサポートするために、2020年4月に TUFS Academic Support Center (たふさぼ) を開設しました。

学生のみなさん一人ひとりがおかれている環境は異なり、それぞれがもつ興味関心も異なります。自分らしさとは何か考えをめぐらせたり、人と違う選択を決断したり、悩んだり、迷ったりすることも少なくないと思います。そんな時、よかったらたふさぼに立ち寄ってください。

1. 教員・大学院生などからなるスタッフがみなさんの学修をサポートします

TUFS Academic Support Center (たふさぼ) では、TUFS Record (たふれこ)、学修活動履歴書、ディプロマ・サプリメントに関するサポート、履修に関する相談、学内の各種学修プログラムや特別授業の紹介を行っています。将来のために何に取り組むべきか迷ったとき、どうやって自分の興味関心を広げたらよいのか悩んだときなど、たふさぼを活用してください。

1-1. TUFS Record (たふれこ)

学内外の多様な学修活動を記録するシステム「TUFS Record」(たふれこ) は、自分自身を振り返って客観的に見つめ直すことがしやすくなり、課題が明確になるツールです。「TUFS Record」に登録された情報は、「学修活動履歴書」と「ディプロマ・サプリメント」の重要な情報源となります。



アカデミック・サポート・センターでは、たふれこに登録するための言語力の届け出を受け付けています。

みなさんが自主的に受けた外部試験結果があれば、届け出てください。

外部試験結果の一例：TOEIC、IELTS、TOEFL、ドイツ語（ゲーテ・ドイツ語検定試験）やフランス語（実用フランス語技能検定試験）、イタリア語（実用イタリア語検定試験）、中国語（HSK）など。

たふれこって何だろうと関心を持ってくださった方は、ぜひ、「TUFS Moodle」にアクセスしてみてください。マイコースから、「TUFS Record (〇〇年度入学者)」のコースに入ってくださいと、たふれこが始まります。

★たふれこについては、例年春学期に新入生を対象としたガイダンスを開催しています。たふれこの活用方法について説明しますので、ぜひご参加ください。

1-2. ミニ相談・学修相談

たふさぼ窓口では、TUFS Record (たふれこ) に関連する各種届け出や相談を受け付けています。また学内の各種プログラムなどについても紹介しています。これらの質問や相談には「ミニ相談」として、教員や大学院生などからなるスタッフが対応します。お気軽にお越しください。

履修の仕方(自分の興味・関心と履修など)や卒論の書き方、ゼミ選択、転学部、大学院進学など、時間をかけて相談したいことがある場合には、教務アドバイザー小林先生・金井先生の「学修相談」を予約してください。



最新の予約状況などは、たふさぼ HP をご確認ください。

2020 年度国社の学生さんからの相談例：履修の仕方、オンライン授業での集中力・モチベーションの維持、ゼミ選択、転学部／転学、留学、卒論の書き方・進め方、テーマ設定、大学院進学など。

1-3. たふさぼ・おしゃべり会 (オンライン zoom 開催)

コロナ禍にあっても、学生のみなさん同士がつながり・話せる機会を作りたく、2020 年度秋学期より、たふさぼ・おしゃべり会を開催しています。

毎回 10 名程度の方が参加をしてくれ、その時々トピックについて、たふさぼ・スタッフを交えておしゃべりをしています。

学部やゼミ、学年をこえたゆるやかなつながりの中で、アイデアやひらめきがうまれています。

2021 年度は春学期より、おしゃべり会を企画しています。よかったらぜひご参加ください。企画のアイデアも絶賛募集中です！

2020 年度開催おしゃべり会一覧

- 第 1 回「秋学期みんなどうしてる？」
- 第 2 回「外大生流！語学学習法」
- 第 3 回「みんなどうしてる？おうち時間の効率的な過ごし方」
- 第 4 回「オンラインと対面 どっちが好き？」
- 第 5 回「あなたの・わたしの 2020 年」
- 第 6 回「卒論」
- 第 7 回「『編入生』の過ごし方：新学期をどう迎える？」
- 第 8 回「冬学期の過ごし方：いかに冬を越えるか」
- 第 9 回「卒業生にきいてみよう！」
- 第 10 回「アメリカの社会情勢について語る会」
- 第 11 回「大学院、進学する？」



たふさぽホームページにおしゃべり会の案内を掲載しています。
ぜひチェックしてください！（チラシ一例）

2. たふさぽスタッフからみなさんへのメッセージ

教務アドバイザー

たふさぽの教務アドバイザーの小林幸江です。私は、2015年から旧学生相談室、2020年度から現たふさぽの相談員をしています。履修関係を中心に、いろいろな学生から相談を受けています。相談の中身はいろいろですので、相談してすべてが解決するわけではありません。しかし、相談することで、解決への糸口が見つかることも多いのではと感じています。

相談すると言っても、ただ話を聞いてもらうだけでよいという人、ちょっとの後押しで再び前に進んでいく人等、学生の相談の受け止め方はさまざまです。悩んだときは、第三者の考えを聞いてみるのもよい解決策です。コロナ禍で移動も人との接触も制限されています。そのような状況の中で、1人思い悩むことなく、気軽にたふさぽに相談してください。

教務アドバイザー

こんにちは。教務アドバイザーの金井光太郎です。3年前まで国社の教員でアメリカ地域を担当し政治史が専門でした。大学生活で学ぶのは何よりも自由です。学び、遊び、交友、活動、キャリア、様々な場面で決めるのは自分自身になります。結局全て自分に返ってくるからです。返ってきたときに人のせいにはできません。それが自由。ですから、迷い、悩みます。しかし、自分で決めるとは孤独に閉じこもることではありません。むしろ逆でしょう。人と話し、相談する。支援を求める局面もあります。頼りになる相手はいるのです。それを上手に見つけて活用するのも自分の責任です。何でもかんでも人に投げ出すのではなく、また自分で背負い込むのでもなく、自分をよく見つめ自分を大事にする。その時人との話で気付くことがたくさんあります。たふさぽでは、レポートや質問のしかたなど具体的なことから大学生活や将来のことまで皆さん自身の気づきを応援します。

たふさぼスタッフ（国社卒・修士課程2年）

大学生活は、それまでの学校生活とは大きく違って、自分の勉強したいこと、好きなこと、やりたいことに何でも挑戦できるとても貴重な4年間です。好きな授業を履修したり、入りたいゼミに入ったり、留学したり…本当に色々なことができます。しかし、そういった自由や楽しさがある一方、今まで出会ったことないトラブルや精神的不安に襲われることもあります。中学・高校とは違って担任の先生など事情をよくわかってきて身近に相談できる大人もなかなか見つけにくかったりもします。そんな時、気軽に相談する先の一つとしてTUFSAアカデミックサポートセンター（たふさぼ）があることを覚えていてほしいです。レポートの書き方やゼミなどの学問に関する相談に関しては教員による学習相談、もっと気軽に学生生活における悩みを聞いてほしいければ本学学生のスタッフとの相談や、在校生同士のおしゃべり会など、大学生ならではの悩みに幅広く対応できる場所です。スタッフ一同、皆様の充実した大学生活をサポートしたいとの思いで活動しているのでぜひお立ち寄りください。

たふさぼ・センター長

たふさぼ・センター長の布川あゆみです。大学生活、「もっともっと勉強してみたい！でも何から始めたらいいのだろうか？」、「自分の問題関心って、どうやってつくれるの？どうやって広げられるの？」、「問いを立てるって、レポートを書くと、どうすればいいの？」、いろんな悩みや迷いをもつことがあるかと思います。そんなときは、一人で考える時間を大事にしながらも、たふさぼもぜひ活用してください。スタッフ一同みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

3. たふさぼへのアクセス

場所：研究講義棟1階北側エントランス横

開室時間：春・秋学期 月曜～金曜 10：00～15：00（※長期休暇中は閉室）

最新の情報は、たふさぼHPをご確認ください。

たふさぼHP：<http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/tufssupport/>



たふさぼ室内の様子



お問い合わせ先

TUFS Academic Support Center

住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電話：042-330-5885

メールアドレス：academic-support-center@tufs.ac.jp

学生相談室

～心豊かで実りある学生生活を送るために～

忙しい日々のなかで、どうしたら元気に学び、心身ともに成長していけるのでしょうか？
ストレスと上手に付き合う方法などをご紹介します。

1. 学生生活サイクル（鶴田，2001より抜粋）

	入学期（1年生）	中間期（2～3年生）	卒業期（4年生）
課題	新しい生活に慣れる 多くのことを自分で決める 大学のカリキュラムに慣れる、 関心領域を選ぶ 目標設定 新しい対人関係	自分らしさの探求 自分を見つめ、関心を絞る 将来の進路選択の準備 対人関係の深まりと広がり	将来への準備 卒業論文の完成 卒業による別れ 進路の決定
心理的特徴	入学したことについての気持ち の整理（達成感、戸惑い、違和 感など） 受験勉強から、自分の興味や関 心に沿った勉強への切り替え 現在の進路の受容	生活の管理（時間の過ごし方、食事等） 自分らしい生活の展開 友人関係の問題 内的世界を豊かにする、それを言葉に する力	進路決定にあたって内面 と現実の統合 経験を積み重ねる 現実生活を生き抜く 学生生活をまとめる

大学生活では、それぞれの時期に応じた課題と、心理的な特徴を持つといわれています。

大学生は、「自分は何者なのか？」という問いを抱えながら、様々に試行錯誤する時期でもあります。大学生活は、色々なチャレンジをしながら、自分らしさを探す旅ともいえるかもしれません。

どんな旅をしてみたいですか？

たまに、ゆっくりと座って、自分の内側に注意を向けて、
どんなことがしたいのかな……と問いかけてみてください。



自然に答えが出てくるのを待って、まだ言葉になっていないけれど、なんとなく身体で感じる感じに、好奇心をもってやさしくしてみましょう。

……ああ、自分は、本当はこう感じていたんだな、とわかるかもしれません。

アン・ワイザー・コーネル（1996）「やさしいフォーカシングー自分でできるこころの処方」

コスモスライブラリー

2. スケジュール管理の方法

沢山のことを学び、充実した日々。しかし忙しく余裕がなくなってくると、どうしても視野が狭くなりがちです。そんなときには、抱えているものごとを書き出して、眺めることで、余裕を取り戻すことができます。自分にとってやりやすい方法で工夫してみてください。

<用意するもの>

1か月の予定が見える手帳あるいはカレンダー（大きめがおすすめ）、付箋、マスキングテープなど

<手順>

- ①課題や用事、気がかりを、付箋やマスキングテープに書き出します。カラフルにするのも○。
- ②書いたものを、手帳かカレンダーの実際に行う時期にどんどん貼っていきます。
- ③付箋が混み合っているところは、忙しい時期！周辺に「ひと休みできる時間」を確保しましょう。疲れから回復するのに必要な、休み時間もスケジュールに組み込むのがポイントです。
- ④できるだけ単純で、短時間で終わらせる作業から取り掛かりましょう。
- ⑤適度に場所を変えて取り組むのも、集中力を維持するのに役立ちます。
- ⑥実際に達成したら付箋をはがして減らしていきましょう。

3. ストレス対処

ストレスには、いろいろなものがあります。気温や気圧などの環境的な要因、病気などの身体的な要因、不安や悩みなどの心理的な要因、人間関係の変化などの社会的な要因など、ストレスを与えるものを「ストレッサー」と呼びます。私たちは、ストレッサーを評価しています。そのストレッサーが自分にどんな影響を与えるか、そして、それを自分の力で統制できるかどうかです。そして、ストレスへの対処方法（コーピング）を選択します。



問題状況を解決するための行動や対話などが「問題焦点型」のコーピングです。一方で、そのときの気持ちや気分の改善を目指すのが「情動焦点型」のコーピングです。問題状況や人によって、どの対処方法がうまく当てはまるかは異なります。

自分なりのコーピングでうまくストレスに対処できないときに、私たちには様々な「ストレス反応」が現れます。お腹が痛くなったり、肩が凝って頭が痛くなったり…といった身体反応、気持ち

がいらいらしてしまったり落ち込んだりする心理的な反応、ストレスがかかる場所や場面を避けてしまうなどの行動にも表れることがあります。そんなときに役立つのが「人の助けを借りる（援助希求）力」です。



4. 「援助希求 (help-seeking)」能力を身に着けよう！

人に助けを借りることは、だれしも恥ずかしいと思う気持ちがあると思います。しかし、困ったときに人に頼り、質問し、教えてもらうのは社会人になった時に役立つ大事な力です。聞くは一時の恥。自分の弱さ、失敗を認めながら、信頼できる人と次の一步を模索することは、とても勇気のいること。あなたを本当の成長に向かわせてくれるでしょう。

困った場合にはこちらへ（学生相談の総合案内）<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/>

5. 学生相談室の利用

学生相談室では、カウンセラー（臨床心理士）が内容や程度を問わず親身になって対応しています。継続的なカウンセリングも、学内外の他機関をご紹介することも可能です。学生相談室では法令や倫理綱領に基づいて守秘義務を遵守しており、安心して相談ができる体制が整っています。

受付では心理に関する本の貸し出し等もしています。関心のある方は気軽にお立ち寄りください。



6. 新型コロナウイルス感染症による生活の変化にどう対応するか



大学生活のなかで、授業外の時間に人と触れ合い、出会い、語り、一緒に活動することはとても大切な部分です。今、それを全く新しい形で行うことが求められています。試行錯誤しながら新しい方法を一緒に模索していきましょう。

☆情報とのほどよい付き合い方を見つけよう

ニュースやインターネット上には、大切な情報もあれば、不安を掻き立てる情報もあります。情報を見たときに、どんな感じがするか確かめてみましょう。それは、本当に自分の求めている情報でしょうか？何を知りたいのかが明確になってから調べる、情報を見ない時間をとることも一つの方法です。

☆こころや身体と上手に付き合おう（運動・呼吸・ストレッチ・瞑想・ヨガも含む）

こころや身体は、時に自分の思うようには動いてくれないことがあります。眠れない、ぼーっとしてしまう、だるい、落ち込んでしまう、不安でたまらない……。自律神経や睡眠リズムを整える

ためにも、ストレッチや呼吸法（5秒かけて息を吐き、5秒で吸うなど）、運動、入浴、軽い散歩などで血行を良くしましょう。また、のんびりとリラックスできる時間や居場所を大事にしましょう。

国立精神・神経医療研究センター「コロナに負けない：不安との付き合い方」

<https://www.ncnp.go.jp/nimh/behavior/anxiety/index.html>



☆大事な人とつながろう

人と目的もなくおしゃべりをする、何気なく挨拶を交わすということが実は大切なものであることがわかってきました。意識的に人と話す機会を作りましょう。オンラインでも可能ですし、昔からの知り合いや家族と連絡を取るのもおすすめです。感染対策をよく知り、安全な方法を探してみてください。

☆やりたいことをみつけよう

オンラインでの取り組みは増えています。海外の大学の授業、学会や国際会議、舞台や美術館の動画配信、ガイド付き旅行、ダンスのレッスン。アルバイト。好きな世界、興味のある領域、普段は会えない場所にいる人との出会いを見つけてみましょう。きっと、将来へのヒントが隠されているはずです。



学生相談室 HP

<http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/sccs/>

受付窓口：保健管理センター棟1階北口ドアより

受付窓口開室時間：月～金 10時～16時（12時30分～13時30分はお昼休み）

相談申し込み方法

★電話：042-330-5560（受付直通）

★ホームページ上の相談申し込みフォーム（学生相談室ホームページからリンクがあります）

<https://business.form-mailer.jp/fms/51acb6c485374>

（新型コロナウイルス感染症対策が必要な間は、主に電話やzoomによる遠隔相談を行っています）

2021年度 国際社会学部 学部運営体制

学部長	真島 一郎
副学部長	大川 正彦
地域社会研究コース コース長	丹羽 泉
現代世界論コース コース長	加藤 美帆
国際関係コース コース長	鈴木 美弥子
学部長補佐 (入試担当)	菊池 陽子
学部長補佐 (教務：カリキュラム担当)	倉田 明子
学部長補佐 (教務：ゼミ選択担当)	青木 雅浩
学部長補佐 (学生担当)	福嶋 千穂
学部長補佐 (広報・点検評価担当)	中山 裕美

地域代表教員

北西ヨーロッパ	伊東 剛史
中央ヨーロッパ	篠原 琢
西南ヨーロッパ	芹生 尚子
イベリア	久米 順子
ロシア	翼 由樹子
中央アジア	木村 暁
東アジア	澤田 ゆかり
北アメリカ	大鳥 由香子
ラテンアメリカ	高橋 均
アフリカ	坂井 真紀子
オセアニア	山内 由理子
東南アジア	宮田 敏之
南アジア	水野 善文
中東	青山 弘之



※作成にあたって TUFFS Academic Support Center、学生相談室のご協力をいただきました。

東京外国語大学 国際社会学部の歩き方

2021年度入学生版

2021年3月発行

東京外国語大学 国際社会学部

表紙デザイン：益森 有祐実

(国際社会学部 地域社会研究コース 東アジア地域／中国語 3年生) ※学年は発行時

